CA ARCserve® Backup for Windows

Agent for Microsoft SharePoint ユーザ ガイド

r12.5

本書及び関連するソフトウェア ヘルプ プログラム（以下「本書」と総称）は、ユーザへの情報提供のみを目的とし、CA はその内容を予告なく変更、撤回することがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複写、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。本書は、CA または CA Inc. が権利を有する秘密情報でかつ財産的価値のある情報で、アメリカ合衆国及び日本国の著作権法並びに国際条約により保護されています。

上記にかかわらず、ライセンスを受けたユーザは、社内で使用する場合に限り本書の合理的な範囲内の部数のコピーを作成でき、またバックアップおよび災害復旧目的に限り合理的な範囲内で関連するソフトウェアのコピーを一部作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を各コピーに添付することを条件とします。 ユーザの認可を受け、プロダクトのライセンス条項を遵守する、従業員、法律顧問、および代理人のみがかかるコピーを利用することを許可されます。

本書のコピーを印刷し、関連するソフトウェアのコピーを作成する上記の権利は、プロダクトに適用されるライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。 いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザは CA に本書の全部または一部を複製したコピーを CA に返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

該当するライセンス契約書に記載されている場合を除き、準拠法により認められる限り、CA は本書を現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。 また、本書の使用が直接または間接に起因し、逸失利益、業務の中断、営業権の喪失、情報の損失等いかなる損害が発生しても、CA はユーザまたは第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害について明示に通告されていた場合も同様とします。

本書及び本書に記載されたプロダクトは、該当するエンドユーザ ライセンス契約書に従い使用されるものです。

本書の制作者は CA および CA Inc. です。

「制限された権利」のもとでの提供：アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212, 52.227-14 及び 52.227-19(c)(1) 及び (2)、及び、DFARS Section252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

Copyright © 2009 CA. All rights reserved.

CA 製品リファレンス

このマニュアル セットは、以下の CA 製品を参照します。

- BrightStor® ARCserve® Backup for Laptops and Desktops
- BrightStor® CA-Dynam®/TLMS Tape Management
- BrightStor® CA-Vtape™ Virtual Tape System
- BrightStor® Enterprise Backup
- BrightStor® High Availability
- BrightStor® Storage Resource Manager
- CA Antivirus
- CA ARCserve® Backup Agent for Advantage™ Ingres®
- CA ARCserve® Backup Agent for Novell Open Enterprise Server for Linux
- CA ARCserve® Backup Agent for Open Files on NetWare
- CA ARCserve® Backup Agent for Open Files on Windows
- CA ARCserve® Backup Client Agent for FreeBSD
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Linux
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Mainframe Linux
- CA ARCserve® Backup Client Agent for NetWare
- CA ARCserve® Backup Client Agent for UNIX
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Windows
- CA ARCserve® Backup Enterprise Option for AS/400
- CA ARCserve® Backup Enterprise Option for Open VMS
- CA ARCserve® Backup for Microsoft Windows Essential Business Server
- CA ARCserve® Backup for Windows
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for IBM Informix
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Lotus Domino
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft Exchange
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft SharePoint
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft SQL Server
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Oracle
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Sybase
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Virtual Machines

- CA ARCserve® Backup for Windows Disaster Recovery Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Disk to Disk to Tape Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Module
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for IBM 3494
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for SAP R/3 for Oracle
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for StorageTek ACSLS
- CA ARCserve® Backup for Windows Image Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Microsoft Volume Shadow Copy Service
- CA ARCserve® Backup for Windows NDMP NAS Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Serverless Backup Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Storage Area Network (SAN) Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Tape Library Option
- CA Dynam®/B Backup for z/VM
- CA VM:Tape for z/VM
- CA XOsoft™ Assured Recovery™
- CA XOsoft™
- CA 1® Tape Management
- Common Services™
- eTrust® Firewall
- Unicenter® Network and Systems Management
- Unicenter® Software Delivery
- Unicenter® VM:Operator®

CA への連絡先

テクニカル サポートへのお問い合わせ

本製品を便利にお使いいただくために、CA では Home Office、Small Business、および Enterprise CA の各製品で必要な情報にアクセスするためのサイト（http://www.ca.com/jp/support/）を提供しています。

目次

第 1 章: エージェントの紹介 11

概要 ... 11
エージェントの機能 ... 11
SharePoint Server 2007 の機能 ... 12
SharePoint Portal Server 2003 の機能 ... 12
サポートされている SharePoint データ ... 13
SharePoint Server 2007 システムにおけるエージェントの動作 ... 14
統合ビュー ... 14
SharePoint Server 2003 システムにおけるエージェントの動作 ... 15
SharePoint Router Agent ... 17
SharePoint External Data Agent ... 17
SharePoint Database Agent ... 17
サーバの役割 ... 18
統合ビュー ... 18

第 2 章: エージェントのインストール 21

環境に関する考慮事項 ... 21
SharePoint Server 2007 のインストールに関する考慮事項 ... 22
インストールの前提条件 ... 23
エージェントの SharePoint 2007 システムでの設定 ... 24
エージェントのインストール ... 26
Agent on SharePoint 2007 システムのアンインストール ... 26
SharePoint Server 2003 のインストールに関する考慮事項 ... 26
インストールの前提条件 ... 28
エージェントの SharePoint 2003 システムでの設定 ... 29
サブエージェントのインストール ... 31
Agent on SharePoint 2003 システムでのアンインストール ... 32

第 3 章: SharePoint 2007 システムのバックアップ 33

バックアップの概要 ... 33
データベース レベルのバックアップ前提条件 ... 33
フル バックアップの実行方法 ... 34
バックアップの考慮事項 ... 34
[データベース レベル エージェント バックアップ オプション]ダイアログ ボックス ... 35

デフォルトのバックアップ ダンプの場所 35
バックアップ ダンプのパス 36
バックアップ方式 36
データベース レベルのバックアップの実行 37

第 4 章: SharePoint 2003 システムのバックアップ 39

バックアップの概要 39
バックアップ処理 39
バックアップの種類 40
推奨されるバックアップ方法 41
必要なフル バックアップ 42
差分バックアップ 43
ファイルおよびファイル グループのバックアップ 44
トランザクション ログ バックアップ 44
データベースの整合性チェック 46
バックアップの考慮事項 48
ローテーション スキーマとグローバル オプション 49
データのバックアップ 50
データベースのバックアップ 51
動的および明示的なジョブ パッケージ 53
動的なジョブのパッケージ 53
オブジェクトの動的なジョブ パッケージ 54
明示的なジョブのパッケージ 54
オブジェクトの明示的なジョブ パッケージ 55

第 5 章: SharePoint 2007 システムのリストア 57

リストアの概要 57
データベース レベルのリストア セット 57
データベース レベルのリストア オプション ダイアログ ボックス 58
デフォルトのリストア ダンプの場所 58
リストア ダンプのパス 58
リストア環境設定 59
データベース レベルのリストアの前提条件 60
データベース レベルのデータ リストアの実行 61

第 6 章: SharePoint 2003 システムのリストア 65

リストアの概要 65
リストア操作 66

データベース リストア 66
データベース以外のデータ リストア 68
リストア方式 69
データベース全体のバックアップ 69
差分バックアップのリストア 69
トランザクション ログのリストア 70
ファイルおよびファイル グループのリストア 70
部分的にリストア 71
リストア オプション 71
自動選択オプション 72
リストア方式オプション 72
リストアの強制オプション 73
[回復完了状態]オプション 73
[ログによる Point-in-Time リストア]オプション 74
[データベース ファイルのリストア方法]オプション 75
データベースの整合性チェック(DBCC)オプション 76
[リストア後、ユーザのアクセスを制限する]オプション 76
[レプリケーションの設定を保持する]オプション 76
リストア方式 77
データのリストア 77
ツリー単位方式でのデータのリストア 78
セッション単位方式でのデータのリストア 81
セッションの自動選択を使用した、ディスクの代替場所へのデータのリストア 83
ディスクの代替場所への[セッション単位]のリストア 84
データベースの代替 Microsoft SQL システムへのリストア 86

第 7 章: 推奨事項 89

適切な場所の選択方法 89
ダンプの場所へのアクセス権の設定 90

付録 A: 惨事復旧 91

SharePoint 2003 システムでのエージェントによる惨事復旧のサポート方法 91
フロントエンド Web サーバのリストア 92
後方互換性ドキュメント ライブラリ サーバのリストア 93
検索インデックス サーバのリストア 93
データベース サーバのリストア 94
MSDE を使ったシングルサーバ インストールのリストア 95
SharePoint 2007 システム上でのデータベース レベルの惨事復旧の実行方法 95

付録 B: Microsoft SQL Server のセキュリティ設定 97
Microsoft SQL 認証の種類 97
認証要件 97
ユーザ認証を変更する方法 98
Microsoft SQL Server の認証方法の確認と変更 98

付録 C: トラブルシューティング 101

索引 103

第 1 章: エージェントの紹介

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

概要(11 ページ)
エージェントの機能(11 ページ)
サポートされている SharePoint データ(13 ページ)
SharePoint Server 2007 システムにおけるエージェントの動作(14 ページ)
SharePoint Server 2003 システムにおけるエージェントの動作(15 ページ)

概要

CA ARCserve Backup は、アプリケーション、データベース、分散サーバおよびファイルシステム向けの包括的かつ分散的なストレージ ソリューションです。 データベース、ビジネス クリティカルなアプリケーション、およびネットワーク クライアントにバックアップ機能およびリストア機能を提供します。

CA ARCserve Backup が提供するエージェントとして、CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint 2007 および CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint 2003 が用意されています。 これらのエージェントは、Microsoft Office SharePoint Server 2007、Microsoft Office SharePoint Portal Server 2003、および Microsoft Windows SharePoint Services 3.0 および 2.0 のデータのバックアップおよびリストアを行います。

SharePoint 環境は複雑で多くのマシンに分散されますが、エージェントは、すべての SharePoint データを CA ARCserve Backup サーバにあるインターフェースのシングルノードに統合することで、SharePoint インストールの完全な保護を提供します。 SharePoint のコンテンツは、SharePoint 分散データベース、シングル サインオン(SSO)、検索インデックスで構成されます。 エージェントを使用すると、CA ARCserve Backup の機能を使って、ネットワークにあるすべての SharePoint データのバックアップとリストアを簡単に管理できます。

エージェントの機能

Agent for Microsoft SharePoint は、バックアップとリストア操作を可能にする、以下のような、多くの機能を提供します。 Microsoft Office SharePoint Server 2007、Microsoft Office SharePoint Portal Server 2003、Microsoft Windows SharePoint Services 3.0 および 2.0 のインストールにバックアップおよびリストア機能を提供します。

SharePoint Server 2007 の機能

このエージェントは、SharePoint Server 2007 で以下の機能をサポートしています。

- 以下の SharePoint Server 2007 ファームおよびファーム コンポーネントのバックアップおよびリストア
  - Web アプリケーション
  - 検索インデックスに関連付けられた SharePoint サービス プロバイダ
  - シングル サインオン(SSO)データベース
  - Windows SharePoint Services Help Search
  - グローバル検索設定
- SharePoint データを元の場所または異なるデスティネーションにリストアするよう指定できます。
- 幅広い種類のストレージ デバイスへのバックアップをサポートします。

SharePoint Portal Server 2003 の機能

このエージェントは、SharePoint Server 2003 で以下の機能をサポートしています。

- Microsoft SQL データベース、Microsoft SQL Server 2000 Desktop Engine (MSDE)、および Microsoft SQL Server 2000 Desktop Engine Windows (WMSDE)のバックアップおよびリストア機能をサポートします。
- 検索インデックス、SharePoint Portal Server 2003 インストールでのシングル サインオンの保護を提供します。
- SharePoint データベースに対しデータベース全体、データベースの差分、ファイルおよびファイル グループの差分、およびトランザクション ログのバックアップをサポートします。

  注: データベース以外のデータ(検索インデックスなど)では、完全なデータベースバックアップのみがサポートされます。
- SharePoint データを元の場所または異なるデスティネーションにリストアするよう指定できます。

サポートされている SharePoint データ

Agent for Microsoft SharePoint には、Windows 2003 が必要で、以下の SharePoint データのバックアップをサポートします。

- Microsoft SharePoint Server 2007
  - SharePoint サーバ ファーム
  - Web アプリケーション
  - Web Application コンテンツ データベース
  - シングル サインオン データベース
  - Windows SharePoint Services Help Search
  - 共有サービス プロバイダ
  - 共有サービス プロバイダ コンテンツ データベース
  - グローバル検索設定
- Microsoft Office SharePoint Portal Server 2003
  - SharePoint Portal 2003 データベース
  - シングル サインオン データベース
  - 検索インデックス
  - 後方互換性ドキュメント ライブラリ
  - Windows SharePoint Services 2.0 データベース

  注: このガイドでは、後方互換性ドキュメント ライブラリ、シングル サインオン（暗号化キー コンポーネントのみ）、および検索インデックスは、データベース以外のデータとして分類されており、SharePoint データベースのデータと区別しています。

注: ファイル システムのバックアップを使って、カスタマイズしたテンプレート、およびフロントエンド Web サーバに保存されている設定ファイルを保護する必要があります。エージェントでは、以下のようなファイルはサポートされていません。

- IIS（Internet Information Server）メタベース
- SharePoint の拡張仮想サーバ ルート ディレクトリ
- カスタム Web パート アセンブリ
- カスタムの SharePoint テンプレートおよび構成ファイル
- SharePoint サイトで使用されるすべてのアドオン ソフトウェア

この情報は、CA ARCserve Backup Client Agent for Windows を使ってすべて完全に保護できます。 このエージェントの使用についての詳細は、「Client Agent ユーザ ガイド」を参照してください。

SharePoint Server 2007 システムにおけるエージェントの動作

CA ARCserve Backup および Agent for Microsoft SharePoint は、連動して動作し、SharePoint 2007 データをバックアップおよびリストアします。 CA ARCserve Backup がデータをバックアップする場合、サーバはエージェントに接続し、リクエストを送信します。エージェントは SharePoint Server 2007 からデータを取得し、ディスク上の共有フォルダにデータをエクスポートしてから、CA ARCserve Backup に送信します。ここでデータがメディアにバックアップされます。 リストア操作の際もエージェントは同様に動作し、バックアップされたデータを CA ARCserve Backup からサーバに転送する処理を支援します。

統合ビュー

バックアップ マネージャには、SharePoint データが分散環境の複数のマシンに存在する場合でも、Agent for Microsoft SharePoint 下にあるすべての SharePoint データが表示されます。

以下の SharePoint データは、Agent for Microsoft SharePoint 2007 オブジェクトのファーム オブジェクトの下に表示されます。

- SharePoint 設定データベース(1 つ)
- Windows SharePoint Services Web Application
- WSS 管理
- 共有サービス プロバイダ
- グローバル検索設定
- Windows SharePoint Services Help Search
- シングル サインオン(SSO)データベース

  注: SSO を設定していない場合は、ツリーに表示されません。

以下の SharePoint 項目を展開し、SharePoint サーバ ファームの全インスタンスを表示できます。

Windows SharePoint Services Web Application

Web アプリケーションおよびコンテンツ データベースを表示します。

WSS 管理

ファーム管理 Web アプリケーションおよびコンテンツ データベースを表示します。

共有サービス プロバイダ

SSP 管理 Web アプリケーション、SSP データベース、ユーザ プロファイル アプリケーション、セッション ステート、SSP 検索インデックス ファイルのような複数の SSP コンポーネントを表示します。

Windows SharePoint Services Help Search

Windows SharePoint Services 検索インスタンスを表示します。

SharePoint Server 2003 システムにおけるエージェントの動作

CA ARCserve Backup および Agent for Microsoft SharePoint は、連動して動作し、SharePoint 2003 データをバックアップおよびリストアします。 CA ARCserve Backup がデータをバックアップすると、このエージェントにリクエストを送信します。 エージェントはデータをサーバから取得して、それを CA ARCserve Backup へ送信します。データはそこでメディアにバックアップされます。 リストア操作の際もエージェントは同様に動作し、バックアップされたデータベースを CA ARCserve Backup からサーバに転送する処理を支援します。

SharePoint データは、複数のサーバに分散されている可能性があるため、Agent for Microsoft SharePoint には、さまざまなサーバを管理するサブエージェントが含まれています。

- SharePoint Router Agent (17 ページ)
- SharePoint External Data Agent (17 ページ)
- SharePoint Database Agent (17 ページ)

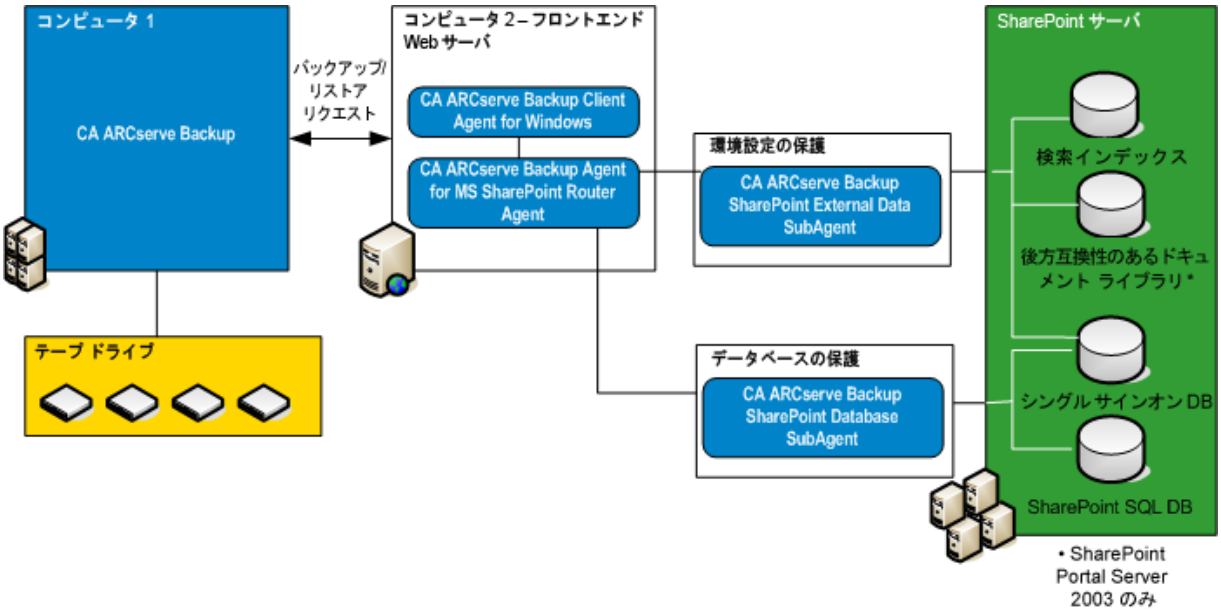
SharePoint データの統合ビューを提供することで、これらのサブエージェントは、複数のサーバに分散されている SharePoint データを保護するため、1 つのユニットとして連動して動作します。

さらに、サブエージェントは、複数の ShaprePoint サーバを使って、バックアップ データをデータ ソースから環境のデスティネーションにルーティングすることで、時間を節約します。

SharePoint データの保護を開始するには、CA ARCserve Backup サーバに CA ARCserve Backup for Microsoft SharePoint 環境設定ウィザード コンポーネントをインストールし、環境設定ウィザードを使って、フロントエンドの Web サーバで、SharePoint Router Agent をインストールします。 SharePoint Router Agent は、設定情報を読み取り、その他のコンポーネントのある場所を確認してから、以下のように、適切な SharePoint サーバで残りのサブエージェントをインストールします。

- 以下のサーバでの SharePoint External Data Agent 機能:
  - 検索インデックス サーバ
  - 後方互換性ドキュメント ライブラリ サーバ
  - シングル サインオン サーバ(データベースの暗号化キー コンポーネントの保護)
- SharePoint Database Agent は、以下のサーバにインストールされます。
  - SharePoint データベース サーバ
  - シングル サインオン データベース サーバ(データベース部分の保護のみ)

次の図は、サブエージェントがインストールされる場所を示しています。



注: SharePoint サーバが複数の役割を担当する場合は、複数のサブエージェントを 1 つのサーバにインストールできます。

SharePoint Router Agent

SharePoint Router Agent は、Agent for Microsoft SharePoint の中央管理コンポーネントであり、フロントエンド Web サーバにインストールされます。 SharePoint Router Agent は、以下の機能を提供します。

- 分散 SharePoint サーバ ファームからのブラウザ要求を 1 つの管理表示に統合します。 バックアップのブラウザ表示には、1 つのバックアップ ノードにあるすべての SharePoint データが表示されます。
- 要求されると、SharePoint データの物理および論理情報が送信されます。 これは、SharePoint サーバにインストールされているサブエージェントからブラウズ情報を取得します。
- バックアップ サーバのリクエストを管理しますが、データのバックアップとリストアには直接関与しません。 パフォーマンスを向上させるには、バックアップおよびリストア タスクを適切なバックアップ サーバに直接送信し、データがデータ ソースからバックアップ先に直接送信されるようにします。

SharePoint External Data Agent

SharePoint External Data Agent は、Agent for Microsoft SharePoint のサブエージェントです。 これは、以下の SharePoint データを含む、SharePoint データベース外にある SharePoint データを保護し、また、SharePoint Portal Server 2003 も保護します。

- 後方互換性ドキュメント ライブラリ
- シングル サインオンの暗号化キー コンポーネント
- 検索インデックス

SharePoint Database Agent

SharePoint Database Agent は、Agent for Microsoft SharePoint のサブエージェントです。 SharePoint Database Agent は、以下の SharePoint データベースをホストする、1 つまたは複数の SharePoint サーバにインストールされます。

- Microsoft SQL Server 2000 または 2005
- Microsoft SQL 2005 Express
- Microsoft SQL Server 2000 Desktop Engine Windows（WMSDE 2000 または MSDE）

SharePoint Database Agent は、次の違いを除き、CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SQL Server と類似しています。

- SharePoint Database Agent で保護されている SharePoint データベースは、SharePoint バックアップ ノードの下に表示されます。
- ブラウズ インターフェースは、SharePoint データのみを検出し、SharePoint サーバ ファーム外にある Microsoft SQL データベースは無視します。

注: Agent for Microsoft SQL Server と Agent for Microsoft SharePoint のデータベース コンポーネントが同一マシンで両方とも展開されると、SharePoint データベースは Agent for Microsoft SQL Server によって実行されたインスタンス全体のバックアップの中に含まれます。

サーバの役割

SharePoint サーバ ファームにある各サーバには、実行する役割を少なくとも 1 つ割り当てる必要があります。 環境設定ウィザードを使用して、各サーバに割り当てられている役割についてマシンを照会します。 環境設定ウィザードは、各サーバに適切なエージェントまたはサブエージェントをインストールします。 SharePoint サーバ ファームの設定を変更する場合は、環境設定ウィザードを使用して、サブエージェントを変更または削除します。

統合ビュー

バックアップ マネージャには、SharePoint データが分散環境の複数のマシンに存在する場合でも、Agent for Microsoft SharePoint 下にあるすべての SharePoint データが表示されます。

以下の SharePoint データは、Agent for Microsoft SharePoint ノードの直下に表示されます。

- 後方互換性ドキュメント ライブラリ（SharePoint Portal Server 2003 のみ）

  注: このオプション ライブラリをインストールまたは設定していない場合は、これはツリーに表示されません。

- SharePoint 設定データベース（1 つ）

  注: 設定データベースが、表示される唯一のデータベースで、アクセス不可とマークされている場合は、エージェントが SharePoint 情報をブラウズできず、データにアクセスできないことを意味します。 SharePoint と Microsoft SQL Server が正常に実行されていることを確認してください。

- SharePoint ポータル
- 検索インデックス

- シングル サインオン

  注: シングル サインオン サービスが、SharePoint 2003 分散ファームのジョブ サーバで開始されている場合、SSO 暗号化キーは CA ARCserve Backup ベース ブラウザでアクセス不可能として表示されます。 SharePoint 2003 のスタンドアロン ファームの場合、この問題は発生しません。

- 共有サービス プロバイダ（Microsoft Office SharePoint Server 2007 のみ）
- Windows SharePoint Services コンテンツ データベース

  注: ポータル環境では、これらのデータベースがトップ レベルではなく、ホスト ポータル下に表示される場合があります。

以下の SharePoint 項目を展開し、SharePoint サーバ ファームの全インスタンスを表示できます。

SharePoint ポータル

データベースを表示します。

検索インデックス

インデックス サーバを表示します。

シングル サインオン

シングル サインオン データベースおよび環境設定ファイルを表示します。

注: このオプション コンポーネントをインストールまたは設定していない場合は、これはツリーに表示されません。

SharePoint バックアップ項目の物理的な場所を表示するには、SharePoint バックアップ項目を選択して、[プロパティ]ペインでプロパティの設定を表示します。

第 2 章: エージェントのインストール

この章では、SharePoint 2007 および SharePoint 2003 システムへの Agent for Microsoft SharePoint のインストールと環境設定について説明します。 このセクションの説明は、読者が Microsoft SharePoint サーバ ファームの一般的な特徴と要件について熟知していることを前提としています。

注: Agent for Microsoft SharePoint for SharePoint 2007 および Agent for Microsoft SharePoint 2003 を同じマシンにインストールすることはできません。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

環境に関する考慮事項 (21 ページ)
SharePoint Server 2007 のインストールに関する考慮事項 (22 ページ)
エージェントのインストール (26 ページ)
Agent on SharePoint 2007 システムのアンインストール (26 ページ)
SharePoint Server 2003 のインストールに関する考慮事項 (26 ページ)
Agent on SharePoint 2003 システムでのアンインストール (32 ページ)

環境に関する考慮事項

SharePoint 環境は複雑になる可能性があり、複数のマシンにわたって分散する場合があります。 サーバ ファームの設定は、Microsoft によってサポートされています。 例として、分散 SharePoint 環境には、以下のコンポーネントを含めることができます。

- CA ARCserve Backup サーバとして設定されているサーバ
- 検索サーバでもある、SharePoint サーバ ファームのフロントエンド Web サーバ
- 検索サーバでもある、SharePoint サーバ ファームの 2 番目のフロントエンド Web サーバ
- Single Sign-on の環境設定ファイルもホストする、インデックス サーバおよびジョブ サーバとして構成されるサーバ
- SharePoint サーバ ファームによって使用される SQL Server データベース サーバ
- 後方互換性ドキュメント ライブラリをホストしているサーバ (SharePoint Portal Server 2003 のみ)

SharePoint Server 2007 のインストールに関する考慮事項

エージェントをインストールする際は、以下の点を考慮してください。

- Agent for Microsoft SharePoint 2007 をインストールする前に、Microsoft Office SharePoint Server 2007 または Microsoft Windows Shared Service 3.0 をインストールする必要があります。 このエージェントは、Microsoft Office SharePoint Server 2007 がサポートされているすべてのオペレーティング システムでサポートされています。
- CA ARCserve Backup サーバは、SharePoint 環境で、名前を使ってすべてのマシンに ping できる必要があります。 SharePoint 環境で DNS（ドメイン ネーム システム）を使用していない場合は、SharePoint 環境にあるすべてのマシンを CA ARCserve Backup サーバのホスト ファイルに追加する必要があります。
- Microsoft SQL Server Windows サービスをドメイン アカウントまたはローカル システム アカウントとして実行する必要があります。
- Windows Server 2008 システムで SharePoint 2007 を実行している場合、Central Administration を実行しているのと同じマシンに Agent for Microsoft SharePoint をインストールする必要があります。そうしないと、検索インデックスのバックアップが失敗します。
- CA ARCserve Backup サーバとエージェント サーバが異なるタイム ゾーンにある場合、ジョブが正常に完了しない可能性があります。 ジョブが確実に完了するようにするには、エージェント サーバと CA ARCserve Backup サーバとの間でタイム ゾーンの同期をとる必要があります。
- Microsoft の既知の問題として、Windows Server 2008 システムに Windows SharePoint Services 3.0 および Microsoft Office SharePoint Server 2007 を展開する方法に応じて、SharePoint 2007 の動作が異なることがわかっています。
  - Windows SharePoint Services 3.0 または Microsoft Office SharePoint Server 2007 を Service Pack 1 でアップグレードしている場合、Central Administration Service を実行しているマシン上に CA ARCserve Backup Agent for SharePoint をインストールする必要があります。 バックアップ ジョブやリストア ジョブをサブミットする前に、このサービスがターゲット マシン上で実行されていることを確認する必要があります。実行されていない場合、ジョブは失敗する可能性があります。
  - Windows SharePoint Services 3.0 または Microsoft Office SharePoint Server 2007 を Service Pack 1 と一緒にインストールしている場合も、Central Administration Service を実行しているマシン上に CA ARCserve Backup Agent for SharePoint をインストールします。 ただし、この場合、バックアップ ジョブやリストア ジョブを実行するターゲット マシン上で Central Administration Service を実行している必要はありません。

- CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint 2007 を r12 または r12.1 から本リリースにアップグレードする際に、サーバ ファーム インストールを選択した場合、ファームの作成時に使用したのと同じファーム管理者を使用する必要があります。そうしないと、SharePoint 2007 Agent 環境設定を起動して、環境設定をもう一度行う必要が生じます。 この制限事項は、サーバ ファーム インストール(「完全」および「Web フロントエンド」)にのみ影響します。 SharePoint の単一サーバ(スタンドアロン)インストールには影響しません。

インストールの前提条件

Agent on SharePoint 2007 システムにインストールする前に、以下の前提条件を満たす必要があります。

- Agent for Microsoft SharePoint をインストールするシステムが、インストールに必要な最小要件を満たしていることを確認します。 要件については、Readme ファイルを参照してください。
- ソフトウェアをインストールするコンピュータに対するシステム管理者(root ユーザ)権限または適切な権限を持っていることを確認します。
- Agent for Microsoft SharePoint 設定ウィザードに入力したユーザ名には、SharePoint サーバ ファームの全マシンへの管理者権限が必要です。
- Microsoft SharePoint 2007 ファーム管理者グループに属するアカウントであることを確認します。
- Microsoft Windows SharePoint Services 3.0 または Microsoft Office SharePoint Server 2007 をインストールしていることを確認します。
- Windows Server 2008 を実行している場合は、Central Adiministration を実行しているのと同じマシンに Agent for Microsoft SharePoint をインストールする必要があります。そうしないと、ジョブが失敗します。

エージェントの SharePoint 2007 システムでの設定

CA ARCserve Backup サーバに Agent for Microsoft SharePoint をインストールした後、SharePoint 2007 エージェントによって SPSO12、エージェント COM+ コンポーネントがシステムにインストールされます。 このコンポーネントは、SharePoint 2007 と情報のやり取りを行ってデータのバックアップおよびリストアを実行します。

重要: Agent for SharePoint 2007 を設定する場合、Pagefile の使用サイズが物理メモリを超えないようにしないと、設定に失敗する場合があります。

エージェントの SharePoint 2007 システムでの設定

1. Windows の [スタート]-[すべてのプログラム]-[CA]-[ARCserve Backup]-[Backup Agent 管理]の順に選択します。

   [CA ARCserve Backup Agent 管理]ダイアログ ボックスが開きます。

2. ドロップダウン リストから[CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint 2007]を選択して、[環境設定]をクリックします。

   [環境設定]ダイアログ ボックスが表示されます。

3. 以下のオプションのいずれかを、[デフォルトのバックアップ/リストア ダンプの場所]の下のデフォルトのバックアップ ダンプの場所として選択します。

   注: バックアップ ジョブをリストアする場合にも同じ場所が使用されます。

   エージェントのデフォルトの環境設定の使用

   デフォルトでは有効になっています。 このオプションによって、エージェントの設定中に選択したバックアップ ダンプの場所を利用できます。

   CA ARCserve サーバ

   SharePoint 2007 データを、テープに保存する前に CA ARCserve サーバの共有フォルダにエクスポートします。

   CA ARCserve SharePoint Agent（ローカル マシン）

   SharePoint 2007 データを、エージェントがインストールされているローカル コンピュータの共有フォルダにエクスポートします。 データは、ネットワークを経由してテープに保存されます。

   その他の（NAS、File）サーバ名

   SharePoint 2007 データを、NAS デバイスまたはパブリック共有フォルダにエクスポートします。 このオプションを選択する場合は、サーバ名を指定する必要があります。

   注: IP アドレスではなく、ホスト名を指定する必要があります。

4. 以下のように、[バックアップ/リストア ダンプのパス]の下で共有名と物理パスを指定します。

   共有名

   バックアップ/リストア ダンプの場所として[その他の(NAS、File)サーバ名]を選択する場合は、データのバックアップ先の共有フォルダを指定します。 フォルダに対する必要な権限が付与されている必要があります。

   注: 名前には、特殊文字「$」を最後に含むことはできません。

   物理パス

   バックアップ/リストア ダンプの場所として CA ARCserve サーバまたは CA ARCserve SharePoint Agent を選択する場合は、データのバックアップ先のパスを指定します。

5. [バックアップ方式]で以下のオプションのいずれかをバックアップ方式として選択します。

   グローバルまたはローテーションの設定の使用

   デフォルトでは有効になっています。 これを無効にしない場合は、[スケジュール]タブでバックアップ方式を選択してください。

   フル

   データベース全体をバックアップし、後続の増分バックアップまたは差分バックアップに備えてバックアップされたすべてのファイルにマークを付けます。

   注: 最初にエージェントを実行するとき、サービス パックへのアップグレード後、およびリストアを実行した後には、必ずフル バックアップを実行してください。

   差分

   最後に実行されたバックアップ以降に変更されたファイルをバックアップします。

   注: [フル]または[差分]のバックアップ方式を選択する場合は、[スケジュール]タブの[バックアップ方式]オプションは適用されません。 SharePoint 2007 は、[増分バックアップ]方式をサポートしていません。 [スケジュール]タブで[増分バックアップ]を選択する場合は、[差分バックアップ]と考えられます。

6. [OK]をクリックします。

Agent for SharePoint Server 2007 は設定されました。

エージェントのインストール

Agent for Microsoft SharePoint 2007 および Agent for Microsoft SharePoint 2003 は、CA ARCserve Backup のシステム コンポーネント、エージェント、およびオプションについて標準的なインストール手順に従います。

CA ARCserve Backup のインストール方法の詳細については、「実装ガイド」を参照してください。

注: インストール手順が完了した後で、コンピュータを再起動するよう求めるメッセージが表示された場合は、再起動してください。

Agent on SharePoint 2007 システムのアンインストール

SharePoint 2007 システムで Agent for Microsoft SharePoint をアンインストールするには、Windows で[プログラムの追加と削除]を選択して、[CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint]を選択します。

SharePoint Server 2003 のインストールに関する考慮事項

エージェントおよびサブエージェントをインストールする際は、以下の点を考慮してください。

- CA ARCserve Backup for Microsoft SharePoint 環境設定ウィザードを CA ARCserve Backup サーバにインストールする必要があります。
- CA ARCserve Backup サーバは、SharePoint 環境で、名前を使ってすべてのマシンに ping できる必要があります。 SharePoint 環境で DNS (ドメイン ネーム システム)を使用していない場合は、SharePoint 環境にあるすべてのマシンを CA ARCserve Backup サーバの hosts ファイルに追加する必要があります。
- インストール処理中に、セットアップ プログラムによって環境設定ウィザードがインストールされます。 環境設定ウィザードを使って、各サーバにサブエージェントをインストールし、設定します。 サブエージェントは、設定の完了後、インストールされます。 Agent for Microsoft SharePoint 設定ウィザードをインストールする前に、CA ARCserve Backup をインストールする必要があります。 この設定ウィザードは、CA ARCserve Backup がサポートされているオペレーティング システムすべてでサポートされています。

  注: エージェントのインストール処理を完了するには、サブエージェントを設定する必要があります。

- CA ARCserve Backup サーバとエージェント サーバが異なるタイム ゾーンにある場合、ジョブが正常に完了しない可能性があります。 ジョブが確実に完了するようにするには、エージェント サーバと CA ARCserve Backup サーバとの間でタイム ゾーンの同期をとる必要があります。
- CA ARCserve Backup の以前のリリースからこのリリースへアップグレードする場合、Agent for Microsoft SharePoint 設定ウィザードを使用してすべての CA ARCserve Backup SharePoint エージェントをアップグレードします。これには、Router Agent、External Data Agent、および Embedded SQL Agent が含まれます。 まず、以前のエージェントをすべてアンインストールし、次に、Agent for Microsoft SharePoint をインストールします。
- Agent for Microsoft SQL Server と Agent for Microsoft SharePoint のデータベース コンポーネントが同一マシンで両方展開されると、SharePoint データベースは Agent for Microsoft SQL Server に実行されたインスタンス全体のバックアップに含まれます。 この問題は、Agent for Microsoft SQL Server にも該当します。
- Windows 2003 Server Service Pack 1 によるファイアウォールが有効な環境で Agent for Microsoft SharePoint をインストールおよび設定するには、以下の手順に従います。

  注: この手順は、Agent for Microsoft SharePoint のポートのみに該当します。 Microsoft SharePoint Portal が正しく機能するよう、別のポートを開く必要があることもあります。 以下の手順を実行する前に、Microsoft SharePoint Portal が正しく機能していることを確認します。

  1. SharePoint インストールをホストしているリモート コンピュータすべてで、ファイアウォールが例外を許可するよう設定されていることを確認します。
  2. CA ARCserve Backup インストール メディアから Agent for Microsoft SharePoint をインストールします。 Agent for Microsoft SharePoint 設定ウィザードが自動的に起動します。
  3. [サーバの選択]情報を記入して、[次へ]をクリックします。 SharePoint Router Agent がインストールされていますが、以下のエラー メッセージが表示されて SharePoint Router Agent へのアクセスをファイアウォールがブロックしていることを表します。

     選択したマシン上でルータが見つかりませんでした。 ルータが正常に稼動していることを確認してください。
  4. SharePoint Router Agent がインストールされたマシン上で、UnivAgent.exe 実行可能ファイルを Windows ファイアウォールの例外リストに追加します。 この実行可能ファイルは、以下のディレクトリにあります。

     ```
     c:¥ Program Files¥CA¥SharedComponents¥ARCserve Backup¥UniAgent
     ```
  5. ウィザードで、[マシンにルータをインストール]チェックボックスを選択し、[次へ]をクリックします。 ウィザードが SharePoint トポロジ情報を取得し、[自動]または[カスタム]インストール タイプのいずれかで続行できるようになります。 ウィザードの[インストール]画面に進み、[次へ]をクリックして必要なエージェントをインストールします。

6. インストールされたコンポーネントとエージェントのリストが表示されます。Agent for Microsoft SharePoint を使用するには、あらかじめマシン上の Window ファイアウォール例外リストにこれらのエージェントを追加しておく必要があります。

7. いずれかのコンピュータに CA ARCserve Backup External Data Agent がインストールされている場合、UnivAgent.exe 実行可能ファイルを Windows 例外リストに追加します。 この実行可能ファイルは、以下のディレクトリにあります。

   `c:¥Program Files¥CA¥SharedComponents¥ARCserve Backup¥UniAgent`

8. いずれかのコンピュータに Agent for Microsoft SQL Server がインストールされている場合、以下を Windows ファイアウォール例外リストに追加します。

   - ［ファイルとプリンタの共有］を選び、TCP 139 を選択
   - dbasvr.exe を以下のフォルダから追加

   `c:¥Program Files¥CA¥SharedComponents¥ARCserve Backup¥DBACommon`

   これで Agent for Microsoft SharePoint が CA ARCserve Backup サーバから正しく使用できるようになりました。

インストールの前提条件

Agent for Microsoft SharePoint を SharePoint 2003 システムにインストールする前に、以下の前提条件を満たす必要があります。

- Agent for Microsoft SharePoint をインストールするシステムが、インストールに必要な最小要件を満たしていることを確認します。 要件については、Readme ファイルを参照してください。
- 検索インデックスのバックアップまたはリストアのパフォーマンスが落ちることがあります。これらの操作は、Microsoft SharePoint Server のハードウェアの最小要件しか満たされていない場合には、CPU リソースを 100% 使用することがあるためです。ハードウェア要件の詳細については、Microsoft のマニュアルを参照してください。
- ソフトウェアをインストールするコンピュータに対するシステム管理者（root ユーザ）権限または適切な権限を持っていることを確認します。
- Agent for Microsoft SharePoint 設定ウィザードに入力したユーザ名には、SharePoint サーバ ファームの全マシンへの管理者権限が必要です。
- Microsoft SharePoint 2007 ファーム管理者グループに属するアカウントであることを確認します。
- Microsoft Windows SharePoint Services 3.0 または Microsoft Office SharePoint Server 2007 をインストールしていることを確認します。
- Windows Server 2008 を実行している場合は、Central Adiministration を実行しているのと同じマシンに Agent for Microsoft SharePoint をインストールする必要があります。そうしないと、ジョブが失敗します。

エージェントの SharePoint 2003 システムでの設定

CA ARCserve Backup サーバに Agent for Microsoft SharePoint をインストールしたら、以下の手順を実行して、Agent for Microsoft SharePoint を設定し、そのサブエージェントをインストールします。

Agent on SharePoint 2003 システムで設定する方法

1. 環境設定ウィザードを開始します。

   エージェントをインストールすると環境設定ウィザードが自動的に開始されます。 環境設定ウィザードを再度実行するには、Agent for SharePoint 環境設定のショートカットを使用します。

2. [サーバの選択]ダイアログ ボックスが表示され、SharePoint Router Agent をインストールするフロントエンド Web サーバを選択するように要求されます。

   注: この設定を初めて実行する場合は、[ルータをマシンにインストールする]オプションをオンにして、[次へ]をクリックします。 既存のインストールを再設定する場合は、このチェックボックスを選択しないままにし、[次へ]をクリックします。

   [設定方法]ダイアログ ボックスが開きます。

3. 以下の設定方法からいずれかを選択します。

   自動

   このオプションは、必要な情報を自動的に生成し、現在の SharePoint 設定を保護するために必要なエージェントのインストールを設定します。

   カスタム

   このオプションを使うと、データを保護するために必要なエージェントをインストールするマシンを手動で選択できます。 各サーバの役割(検索インデックス、ドキュメント ライブラリ、シングル サインオン、ポータル データベース)を手動で保護する必要があります。 さらに、[カスタム]オプションを使用して、マシンからエージェントをアンインストールすることもできます。

   [次へ]をクリックします。

4. [カスタム設定の種類]を選択した場合は、[検索インデックス]ダイアログ ボックスで[未保護]リストからマシンの名前を選択し、[これらのマシン名を保護されているリストに追加]をクリックします。 環境設定ウィザードのインストール段階では、データを保護するために必要なエージェントが、[保護済み]リストにあるすべてのマシンにインストールされます。

   サーバのそれぞれの役割(ドキュメント ライブラリ、シングル サインオン、ポータル データベース)についてこの手順を繰り返し、[次へ]をクリックします。

   [自動設定]を選択した場合は、次のステップに進みます。

5. ［選択した設定］ダイアログ ボックスに、インストールされる設定が表示されます。

   注: サブエージェントのインストール パスを設定するには、マシン名を選択し、［エージェントのインストール パス］フィールドでパスを変更し、［適用］をクリックします。

   インストール パスを設定しない場合は、［次へ］をクリックして、インストール処理を開始します。

   進行状況を示すダイアログ ボックスにより、処理を通してインストールされるコンポーネントのインストールが追跡できます。 インストールが完了すると、［サマリ］ダイアログ ボックスが表示され、サーバ ファームにある各サーバのステータスを確認できます。

   環境設定ウィザードをセットアップ処理の一部として実行している場合は、［終了］をクリックして、［インストール サマリ］に戻ります。 ［インストール サマリ］画面でチェックマークの付いているものは、インストールされ、設定されたエージェントです。

   セットアップ処理の後で環境設定ウィザードを実行している場合は、［終了］をクリックして、設定を終了します。

6. バックアップ マネージャでマシンを参照し、エージェントを展開して全サーバの統合ビューを表示します。

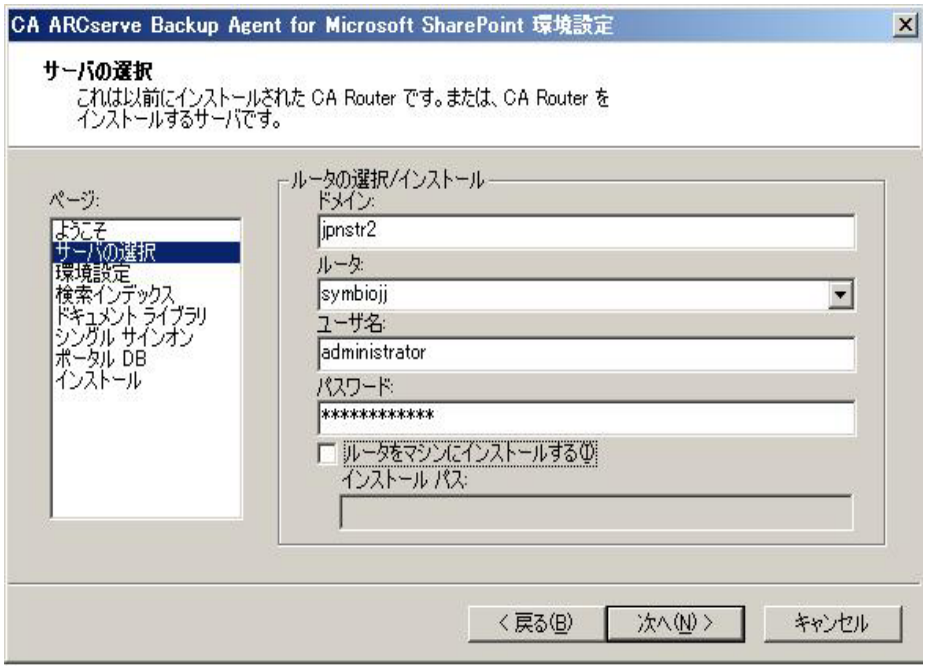
   データは複数のマシンに分散していますが、1 つのノードにすべてが表示されます。

サブエージェントのインストール

SharePoint Router の代わりにその他のサブエージェントをインストールする場合は、環境設定ウィザードを使用します。

サブエージェントをインストールする方法

1. 環境設定ウィザードを開始します。 以下の画面が表示されます。



2. ［サーバの選択］ダイアログ ボックスで、［ルータをマシンにインストールする］チェック ボックスをオフにします。

   ［次へ］をクリックします。

   他のサブエージェントがインストールされます。 サブエージェントは、SharePoint Router のものと同じ SharePointVersion 値を持ちます。

注: あるバージョンから別のバージョンへ切り替えたい場合、SharePoint External Data Agent または External SQL エージェントを、これらのエージェントがまだインストールされたことのないノードにインストールすることが必要である場合があります。 このシナリオでは、まず SharePoint Router の SharePointVersion を手動で変更し、次に環境設定ウィザードを実行して、SharePoint External Data Agent または External SQL エージェントをインストールします。

Agent on SharePoint 2003 システムでのアンインストール

Agent for Microsoft SharePoint またはサブエージェントのいずれかをアンインストールするには、以下の方法のいずれかを使用できます。

- 環境設定ウィザード（SharePoint Router Agent は削除されません）
- Windows の[プログラムの追加または削除]オプション（Share Point Router Agent を含むすべてが削除されます）

分散環境でサブエージェント（SharePoint Router Agent 以外）をアンインストールする最も簡単な方法は、環境設定ウィザードを使用する方法です。 [カスタム設定]を選択し、環境設定ウィザードで、各サブエージェントを[保護済み]リストから[未保護]リストに移動します。

または、Windows の[プログラムの追加または削除]を使用して、CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint を選択することもできます。

注： ShrePoint Router Agent を削除するには、Windows の[プログラムの追加または削除]を使用する必要があります。

エージェントとサブエージェントを削除するのに加え、環境設定ウィザードおよび SPImage ディレクトリを CA ARCserve Backup サーバから削除できます。 これらの項目を削除するには、Windows の[プログラムの追加または削除]を使用して、CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Admin GUI を選択します。

重要： SharePoint 2003 上のエージェントがまだ実行中である間は Microsoft SharePoint Portal Server 2003 はアンインストールできません。 Microsoft SharePoint Portal Server 2003 をアンインストールする前に、エージェントを停止またはアンインストールする必要があります。

第 3 章: SharePoint 2007 システムのバックアップ

この章では、SharePoint 2007 システムのデータのバックアップについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

バックアップの概要 (33 ページ)
データベース レベルのバックアップ前提条件 (33 ページ)
フル バックアップの実行方法 (34 ページ)
バックアップの考慮事項 (34 ページ)
[データベース レベル エージェント バックアップ オプション] ダイアログ ボックス (35 ページ)
データベース レベルのバックアップの実行 (37 ページ)

バックアップの概要

データベース レベルのバックアップは SharePoint Server 2007 データベース ファイルを保護します。 これは SharePoint Server の基本的なバックアップであり、ほかのバックアップ方式を使用している場合でも常に使用する必要があります。 システム障害、データベース破壊、または惨事復旧の場合には、データベース レベルのバックアップを使用して SharePoint Server をリストアできます。

データベース レベルのバックアップ前提条件

SharePoint Server 2007 上でデータベース レベルのバックアップを実行する前に、以下の要件を満たす必要があります。

- Windows SharePoint Services 管理サービスは、フロントエンド Web サーバおよびアプリケーション サーバで実行中です。
- Microsoft SQL Server が実行中であることを確認します。

フル バックアップの実行方法

データベースのフル バックアップを実行する場合は、特定のファームの管理操作を確認する必要があります。 これらの操作のいずれかを実行してから差分バックアップを実行する場合は、以前にフル バックアップしたデータベースを正常にリストアできないこともあります。 この問題を回避するために、以下のいずれかの操作を行った後すぐに常にデータベースのフル バックアップを行います。

- 以下に示すような SharePoint 2007 ファームまたは Windows SharePoint 3.0 ファームのトポロジでの変更
  - 新しい Web アプリケーション、新しい SharePoint サービス プロバイダ、新しいデータベースの、通常 Web アプリケーション または SharePoint サービス プロバイダ管理 Web アプリケーションへの追加。
  - SharePoint サービス プロバイダの名前変更。
  - 管理 Web アプリケーションが SharePoint サービス プロバイダから切断されるように、SharePoint サービス プロバイダを削除。
  - フル バックアップ ジョブの実行中のキャンセル。
  - バックアップからのデータベースのリストア。

バックアップの考慮事項

バックアップを正常に実行するためには、以下の点を考慮してください。

- バックアップ中は、操作は許可されません。 コンポーネント A のフル バックアップを実行してから A の子コンポーネント B のフル バックアップを実行する場合は、コンポーネント A の差分バックアップは失敗します。 つまり、ファーム レベルのフル バックアップはファーム レベルの差分よりも先に実行されることがあります。 ただし、ファーム レベルのフル バックアップを SharePoint Provider Service フル バックアップより前に実行してからファーム差分バックアップを実行することはできません。 この場合は、差分ジョブは失敗してエラー メッセージが表示されます。
- SharePoint Server 2007 と同時に Microsoft SQL Server ツール、Central Administration Web サイトなどのツールを使用してバックアップを実行することはできません。 たとえば、これらのツールを使用してフル バックアップを実行する場合は、差分バックアップ ジョブをリストアできないことがあります。
- Agent for SharePoint や、Client Agent および Agent for SQL などのその他のエージェントを使用して SharePoint Server 2007 を保護しようとする場合は、SharePoint 2007 データは 2 度以上バックアップされることがあります。 この問題を回避するには、SharePoint 2007 データベースおよび Client Agent および Agent for SQL Server バックアップ ジョブからのファイルを除外する必要があります。

SharePoint Server 2007 は以下をサポートしません。

- [グローバル オプション]の下のエージェント側でのデータの暗号化および圧縮。
- バックアップ ジョブのマルチプレキシングおよびマルチストリーミング
- 異なる CA ARCserve Backup ドメインにある 2 つの異なるマシンのエージェントデータのバックアップ。

[データベース レベル エージェント バックアップ オプション]ダイアログ ボックス

以下のセクションでは、CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server 2007 がデータベース レベルのバックアップを実行する場合に提供するオプションについて説明します。

データベース レベルのバックアップ オプションを設定するには、ファーム オブジェクトを右クリックして、[エージェント オプション]をクリックします。 [SharePoint 2007 DB レベル エージェント バックアップ オプション]ダイアログ ボックスが表示されます。

デフォルトのバックアップ ダンプの場所

バックアップ ジョブをサブミットするときは、バックアップ ダンプの場所を選択する必要があります。 バックアップ ダンプの場所から、CA ARCserve Backup は、テープに保存する前にデータを一時的に保存する場所がわかります。

以下のバックアップ ダンプの場所から選択できます。

エージェント デフォルトの設定の使用

デフォルトでは有効になっています。 このオプションによって、エージェントの設定中に選択したバックアップ ダンプの場所を利用できます。

CA ARCserve サーバ

SharePoint 2007 データを CA ARCserve Backup の共有フォルダにエクスポートします。

CA ARCserve SharePoint Agent

SharePoint 2007 データを SharePoint Agent がインストールされている共有フォルダにエクスポートします。

その他の(NAS、File)サーバ名

SharePoint 2007 データを NAS サーバまたは File サーバの指定された共有フォルダにエクスポートします。

注: IP アドレスではなく、ホスト名を指定する必要があります。

バックアップ ダンプのパス

共有名と物理パスを指定する必要があります。

共有名

バックアップ ダンプの場所として[その他の(NAS、File)サーバ名]を選択する場合は、データのエクスポート先の共有名を指定する必要があります。 フォルダに対する必要な権限が付与されている必要があります。

注: 共有名の末尾には、特殊文字「$」を使わないでください。

物理パス

バックアップ ダンプの場所として CA ARCserve サーバまたは CA ARCserve SharePoint Agent を選択する場合は、データのエクスポート先のパスを指定する必要があります。

バックアップ方式

バックアップ ジョブをサブミットする際、バックアップ方式を選択する必要があります。バックアップ方式によって、CA ARCserve Backup でデータがどのようにバックアップされるかが決まります。

以下のバックアップ方式から選択できます。

グローバルまたはローテーションの設定の使用

デフォルトでは有効になっています。 これを無効にしない場合は、[スケジュール]タブでバックアップ方式を選択してください。

フル

データベース全体をバックアップし、後続の増分バックアップまたは差分バックアップに備えてバックアップされたすべてのファイルにマークを付けます。

注: 最初にエージェントを実行するとき、サービス パックへのアップグレード後、およびリストアを実行した後には、必ずフル バックアップを実行してください。

差分バックアップ

最後に実行されたバックアップ以降に変更されたファイルをバックアップします。

注: [フル]または[差分]のバックアップ方式を選択する場合は、[スケジュール]タブの[バックアップ方式]オプションは適用されません。 SharePoint 2007 は、[増分バックアップ]方式をサポートしていません。 [スケジュール]タブで[増分バックアップ]を選択する場合は、[差分バックアップ]と考えられます。

これらのオプションと設定方法の詳細については、「エージェントの SharePoint 2007 システムでの設定」を参照してください。

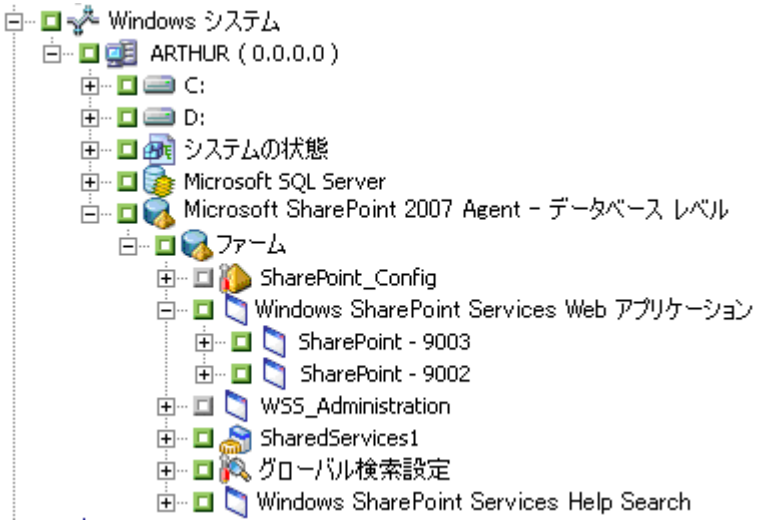
データベース レベルのバックアップの実行

CA ARCserve Backup のバックアップ マネージャを使用して、SharePoint 2007 システムでデータベース レベルのバックアップを実行します。

SharePoint 2007 システムでデータベース レベルのバックアップを実行する方法

1. CA ARCserve Backup ホーム ページの[クイック スタート]メニューから[バックアップ]を選択します。

   以下の図に示すような[バックアップ マネージャ]ウィンドウが開きます。



2. [バックアップ マネージャ]ウィンドウで、バックアップする[データベース レベル]オブジェクトを選択します(Microsoft SharePoint 2007 - データベース レベル)。
   ファーム内の特定のコンポーネントのみをバックアップする場合は、ファームを展開してコンポーネントを選択します。

3. このジョブがある[ファーム]オブジェクトを右クリックし、[エージェント オプション]を選択して、使用するバックアップ方式を選択して[OK]をクリックします。

   注: エージェントの最初の実行中にフル バックアップを常に実行して、SharePoint Server データベースの完全なセットを保存できるようにします。

4. [デスティネーション]タブをクリックし、バックアップ先を選択します。

5. [スケジュール]タブをクリックします。

   カスタム スケジュールを使用する場合は、繰り返し方法を選択します。 ローテーション スキーマを使用する場合は、[ローテーション スキーマ]オプションを選択し、スキーマを設定します。 ジョブのスケジュールおよびローテーション スキームの詳細については、オンライン ヘルプまたは「管理者ガイド」を参照してください。

6. ツールバーの[スタート]をクリックします。

   [セキュリティおよびエージェント情報]ダイアログ ボックスが表示されます。

7. ［セキュリティおよびエージェント情報］ダイアログ ボックスが開いたら、各オブジェクトに対して正しいユーザ名とパスワードが入力されていることを確認します。 ユーザ名やパスワードを入力または変更する場合は、［セキュリティ］ボタンをクリックして変更を行い、［OK］ボタンをクリックします。

8. ［OK］をクリックします。

   ［ジョブのサブミット］ダイアログ ボックスが開きます。

9. ［ジョブのサブミット］ダイアログ ボックスから、［即実行］を選択して今すぐジョブを実行するか、［実行日時指定］を選択してジョブを実行する予定の日時を選択します。

10. ジョブの説明を入力します。

    複数のソースのバックアップを選択した場合に、ジョブ セッションの開始順序を設定するには、［ソース優先度］をクリックします。 ［一番上へ］、［上へ］、［下へ］、［一番下へ］の各ボタンを使用して、ジョブが処理される順序を変更します。 優先順位付けが終わったら、［OK］をクリックします。

11. ［OK］をクリックします。

    バックアップ ジョブがサブミットされます。

第 4 章: SharePoint 2003 システムのバックアップ

この章では、SharePoint 2003 システムのデータのバックアップについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

バックアップの概要 (39 ページ)
バックアップの考慮事項 (47 ページ)
ローテーション スキーマとグローバル オプション (49 ページ)
データのバックアップ (50 ページ)
データベースのバックアップ (51 ページ)
動的および明示的なジョブ パッケージ (53 ページ)

バックアップの概要

「バックアップ」とは、SharePoint データベースまたはデータベース以外のデータ オブジェクトのコピーを作成することです。 Agent for Microsoft SharePoint を使って、バックアップ処理を実行します。

SharePoint Server 2003 データベースまたはデータベース以外のデータ オブジェクトのバックアップを CA ARCserve Backup で開始すると、Agent for Microsoft SharePoint がデータベースとデータの動的バックアップを開始します。 データベースが使用中であっても、バックアップを実行できます。 ただし、バックアップされるデータは、ステートメントが実行された時点での状態になります。 実行中のトランザクションはバックアップされません。 バックアップの開始後に変更されたデータは、バックアップされたデータベースまたはデータベース以外のデータには取り込まれません。

バックアップ処理

CA ARCserve Backup サーバのバックアップ マネージャ インターフェースを使って、SharePoint Server 2003 データをバックアップします。 すべての SharePoint Server 2003 データは、SharePoint サーバの物理的な場所に関係なく、1 つのポイントからアクセスできます。

バックアップ マネージャを使用して、以下のバックアップ処理を行うことができます。

- Browse SharePoint Server 2003 データ
- ジョブ レベルまたはデータベース レベルでのバックアップ オプションの設定
- 選択した SharePoint Server 2003 データのバックアップ

注: SharePoint Server 2003 データベースのデータでは、個々にバックアップできる最下位のレベル エレメントがデータベースとなります。 個々のテーブルをバックアップすることはできません。

バックアップの種類

[Agent for Microsoft SharePoint]バックアップ オプション ダイアログ ボックスでは、データベースの保護方式を以下から選択できます。

データベース全体

SharePoint Server 2003 データベースのフル バックアップを使用します。 フル バックアップを使って、SharePoint Server 2003 データベース以外のデータ(検索インデックスなど)をすべてバックアップすることもできます。

注: データベース以外のデータでは、エージェントは、データベース全体のバックアップのみをサポートします。

データベース差分

データベース全体のバックアップが最後に行われてから変更されたデータベースのデータのバックアップを行います。 たとえば、日曜日の夜にデータベース全体のバックアップを行った場合、月曜日の夜に差分バックアップを行い、月曜日に変更されたデータのみをバックアップします。

トランザクション ログ

トランザクション ログをバックアップします。 トランザクション ログのバックアップでは、以下のオプションが提供されます。

- [アクティブでないエントリをトランザクション ログから削除する] - トランザクション ログからアクティブでないエントリを切り捨てます。 デフォルトでは、このオプションが選択されています。
- [アクティブでないエントリをトランザクション ログから削除しない] - アクティブでないログ エントリはバックアップ後でも保持されます。 これらのエントリは、次回のトランザクション ログのバックアップに含まれます。

- ［ログの末尾をバックアップし、データベースは復元中の状態にする］ - ログの末尾がバックアップされ、データベースは読み取り専用およびスタンバイ モードのままになります。 前回のバックアップ以降のアクティビティをバックアップして、リストアのためにデータベースをオフラインにするには、このオプションを使用します。

  重要: SharePoint 2003 環境設定データベースのバックアップでは、このオプションを選択しないでください。 この機能はサポートされていません。 ただし、SharePoint 2003 データベースのバックアップ時はこのオプションを使用することができます。

ファイルとファイル グループ

データベース内の選択したファイルをバックアップします。 データベースのサイズやパフォーマンス要件によっては、データベースのフル バックアップを行うのが現実的でない場合があります。このような場合は、このオプションでファイルまたはファイル グループを選択し、バックアップを行います。

ファイルとファイル グループ - 差分

選択したファイルで、最後のファイル/ファイル グループ バックアップから変更されたデータベースのデータをバックアップします。 ファイルの差分バックアップにより、トランザクション ログからリストアすべきトランザクションの数が減少し、回復時間が短縮されます。

推奨されるバックアップ方法

データベースおよびデータベース以外のデータをバックアップする最良の方法を確立するには、以下の推奨事項に従ってください。

- データベースの活動が低から中である場合は、以下の周期でバックアップをスケジュールします。
  - フル バックアップ: 週 1 回
  - 差分バックアップ: 1 日 1 回
  - トランザクション ログ バックアップ: 2 ～ 4 時間ごと
- データベースの活動が高で、小から中規模のデータベースである場合は、以下の周期でバックアップをスケジュールします。
  - フル バックアップ: 週 2 回
  - 差分バックアップ: 1 日 2 回
  - トランザクション ログ バックアップ: 1 時間ごと

- データベースの活動が高で、完全復旧モデルまたは一括ログ復旧モデルを使用している大規模のデータベースである場合は、以下の周期でバックアップをスケジュールします。
  - フル バックアップ: 週 1 回
  - 差分バックアップ: 1 日 1 回
  - トランザクション ログ バックアップ: 20 分ごと
- データベースの活動が高で、単純復旧モデルを使用している大規模のデータベースである場合は、以下の周期でバックアップをスケジュールします。
  - フル バックアップ: 週 1 回
  - 差分バックアップ: 1 日 2 回
- データベース以外のデータ(後方互換性ドキュメント ライブラリなど)では、データの変更頻度に合わせて、バックアップをスケジュールまたは計画します。 たとえば、後方互換性ドキュメント ライブラリの活動が高の場合は、フルバックアップを週に 2 回実行します。 活動が低の場合は、週に 1 回のフルバックアップを実行します。 データベース以外のデータは、フルバックアップでのみバックアップ可能であることに注意してください。

必要なフル バックアップ

データベース管理タスクの中には、実行後の次のバックアップでデータベースのフル バックアップが必要となるものがあります。 このような操作の後で差分バックアップ、トランザクション ログのバックアップ、またはファイルおよびファイル グループのバックアップを行った場合は、そのバックアップとデータベースの最新のフル バックアップを共に使用しても、データベースを正しくリストアできないことがあります。

この問題を回避するために、以下のいずれかの操作を行った後はデータベースのフル バックアップを行います。

- SharePoint 設定の変更
- 検索インデックスを追加した場合
- 新しいデータベースを作成した場合
- データベースの復旧モデルを変更した場合
- データベースのファイルまたはファイル グループの数を変更した場合
- ファイル グループ間のファイルの編成を変更した場合
- フル バックアップ ジョブを実行中にキャンセルした場合
- バックアップからデータベースをリストアした場合

詳細情報

バックアップの種類 (40 ページ)
推奨されるバックアップ方法 (41 ページ)

差分バックアップ

差分バックアップでは、最後にデータベースのフル バックアップ (データの同じ部分/同じデータ ファイル/同じデータベース サブセットの) が行われてから変更されたデータのみが記録されます。 通常は、差分バックアップのデータ量はデータベースのフル バックアップよりも少ないため、短時間で終了することができますが、トランザクション ログのバックアップよりはデータ量が多いため、時間がかかります。 最新の差分バックアップデータでリストアを実行するには、少なくとも最後に実行されたフル バックアップのデータが必要になります。最後のフル バックアップとこの差分バックアップの間に実行された差分バックアップやトランザクション ログのバックアップのデータは必要ありません。 差分バックアップからのリストアは、トランザクションを再処理する必要がないため、トランザクション ログからのリストアよりも短時間でリストアできます。

注: データベースの稼働率が高い場合や最後にフル バックアップを行ったときから長時間が経過している場合、差分バックアップにフル バックアップと同じくらい時間がかかることがあります。

詳細情報

バックアップの種類 (40 ページ)
推奨されるバックアップ方法 (41 ページ)

差分バックアップのタイミング

差分バックアップは、フル バックアップを補うために実行します。 差分バックアップは、実行時間が短くデータ量が少ないため、データベースのフル バックアップよりも頻繁に実行することができます。 頻繁なデータベースのフル バックアップよりもバックアップ用のメディアに必要な容量が小さく、データベースのパフォーマンスに対する影響も少ないため、効率も高くなります。 また、差分バックアップを使用すると、リストア中に回復するトランザクション ログの数を最小にすることができます。これは、差分バックアップ以降のトランザクション ログ バックアップのみをリストアするだけでよいためです。

以下の場合には差分バックアップが最適です。

- データベースの最後のフル バックアップ以降に追加された変更が、比較的小規模の場合。 特に、差分バックアップは、同じデータが頻繁に変更される場合に実行すると最も効率的です。
- トランザクション ログのバックアップを実行できない単純復旧モデルを使用しており、頻繁にバックアップを実行したいが、データベースのフル バックアップは非効率的な場合。

- 完全復旧モデルまたは一括ログ復旧モデルを使用したデータベースのリストア時に、トランザクション ログのバックアップを再生する時間を最小限に抑えたい場合。

注: データベース ファイルやログ ファイルを追加した場合、復旧モデルを変更した場合など、データベースの構造や設定を変更した後は、差分バックアップおよびトランザクション ログのバックアップを実行する前に、データベースのフル バックアップを実行する必要があります。 詳細については、「必要なフル バックアップ」を参照してください。

ファイルおよびファイル グループのバックアップ

データベースのサイズやパフォーマンスによっては、データベースのフル バックアップを行うのが効率的ではない場合があります。このような場合は、1 つまたは複数のファイル グループやファイルを選択し、バックアップを行います。

データベース全体ではなくファイル単位でバックアップをする場合は、データベースにあるすべてのファイルが必ず定期的にバックアップされるようなバックアップ手順を確立し、ファイルやファイル グループを個別でバックアップするデータベースのトランザクション ログのバックアップを別途実行する必要があります。 ファイルのバックアップをリストアしたら、トランザクション ログを適用して、データベース全体と整合性を保つ必要があります。 詳細については、MS SQL Server のマニュアルを参照してください。

詳細情報

バックアップの種類 (40 ページ)
推奨されるバックアップ方法 (41 ページ)

トランザクション ログ バックアップ

トランザクション ログは Microsoft SQL Server データベース アクティビティを記録します。 完全復旧モデルまたは一括ログ復旧モデルを使用する場合は、頻繁にバックアップしてください。 トランザクション ログをバックアップするには、データベースのバックアップとは別に、独立したトランザクション ログのバックアップを実行します。 トランザクション ログのバックアップには、他のバックアップと比べて、以下のような利点を提供します。

- 一般的に差分バックアップよりも短時間
- 一般的にフル データベース バックアップよりも高速で小規模(最近切り取られていない限り)
- 一般的に、実行中にデータベースのパフォーマンスに与える影響が最小限
- 通常、バックアップを実行した時点の状態ではなく、特定の時点での状態にリストアすることが可能

データベース ファイルやログ ファイルを追加した場合、復旧モデルを変更した場合など、データベースの構造や設定を変更した後は、差分バックアップおよびトランザクション ログのバックアップを実行する前に、データベースのフル バックアップを実行する必要があります。 詳細については、「必要なフル バックアップ」を参照してください。

破損したデータベースのトランザクション ログ バックアップが可能な場合があります。 データベースが[問題あり]または[破損]状態でも、そのトランザクション ログ ファイルが保持されている場合は、切り捨てなしでトランザクション ログ バックアップを実行できます。 これにより、データベースを障害発生直前の状態に回復することができます。

重要: データベースのフル バックアップおよび差分バックアップでは、トランザクション ログはバックアップされません。 別のトランザクション ログ バックアップを実行するか、または[データベースの後にトランザクション ログをバックアップする]オプションを使用してバックアップする必要があります。 トランザクション ログはトランザクション ログ バックアップの一部としてのみ切り捨てられます。 バックアップおよび切り捨てが行われない場合は、ディスクがいっぱいになるまで増え続ける可能性があります。 この問題が発生した場合は、切り捨てによるトランザクション ログ バックアップを実行し、トランザクション ログ ファイルを圧縮してディスク容量を解放する必要があります。 SQL 2005 以降でログ ファイルのサイズをかなり縮小するには、切り捨てによる複数のログ バックアップが必要になります。

注: 単純復旧モデルを使用しているデータベースは、トランザクション ログ バックアップを許可または必要としません。 Microsoft SQL Server は、これらのデータベースのトランザクション ログのメンテナンスを自動的に管理します。

詳細情報

バックアップの種類 (40 ページ)
推奨されるバックアップ方法 (41 ページ)

トランザクション ログ バックアップのリストア要件

トランザクション ログのバックアップをリストアするには、まず以下のセッションをリストアする必要があります。

- 前回実行したデータベースのフル バックアップ
- データベースのフル バックアップ以降に実行され、且つ選択したトランザクション ログ バックアップ以前に実行された、前回の差分データベース バックアップ (ある場合)
- 前回のデータベース フル バックアップまたは差分バックアップ以降に実行され、且つ選択したトランザクション ログ バックアップ以前に実行された、その他のトランザクション ログ バックアップ

または、以下をリストアすることもできます。

- 以前のデータベースのフル バックアップ
- 必要に応じ、選択したフル バックアップよりも新しく、且つ次回のデータベースのフル バックアップよりも古いデータベースの差分バックアップ(ある場合)
- 選択したデータベースのフル バックアップまたは差分バックアップ以降に実行された、各トランザクション ログ バックアップ

データベースおよび複数のトランザクション ログをリストアする場合、データベースだけをリストアする場合よりもデータベースの回復に時間がかかります。 どちらの方法をとるかは、使用する環境によります。 バックアップに必要な時間とリストアに必要な時間との観点から考慮する必要があります。

重要: 少なくとも 1 回データベースのフル バックアップを実行するまでは、トランザクション ログ バックアップは実行しないでください。

トランザクション ログの切り捨て

トランザクション ログは、バックアップのときに切り捨てることができます。トランザクション ログを切り捨てるには、バックアップを設定するときに[アクティブでないエントリをトランザクション ログから削除する]オプションを選択します。トランザクション ログを切り捨てないと、サイズが大きくなる可能性があります。

データベースの整合性チェック

データベースの稼働率が低い(特に大規模なデータベースの場合)は、データベースの整合性チェック(DBCC)を実行する必要があります。 この処理には時間を要しますが、Microsoft SQL Server データベースが十分な機能を発揮しているかどうかを判定するために必要な作業です。

DBCC では、データベースの物理的および論理的な整合性がテストされます。 バックアップの[データベースの整合性チェック]オプションを有効にすると、DBCC が以下のテストを実行します。

- DBCC CHECKDB - 指定したデータベース内にあるすべてのオブジェクトの割り当てと構造上の整合性をチェックします。 デフォルトでは、インデックスのチェックが行われます。これにより、実行時間が増加する場合があります。
- DBCC CHECKCATALOG - 指定したデータベースの複数のシステム テーブル内、およびテーブル間の整合性をチェックします。

データベースの整合性チェック（DBCC）オプション

DBCC には、以下のオプションがあります。

バックアップ前

データベースのバックアップ前に DBCC を実行します。

バックアップ後

データベースのバックアップ後に DBCC を実行します。

DBCC が失敗した場合もバックアップを続行

データベースの整合性チェックが失敗した場合でもバックアップを続行します。

リストア後

データベースのリストア後に DBCC を実行します。

インデックスをチェックしない

ユーザ定義のテーブル用インデックスをチェックせずに、DBCC を実行します。

データベースの物理的な整合性をチェックする

一般的なハードウェア障害を検出します。 また、ページとレコード ヘッダの物理構造の整合性、およびページのオブジェクト ID とインデックス ID 間の整合性もチェックします。

DBCC 中に生成したすべてのエラー メッセージは、SharePoint Database Agent がインストールされているマシンの Agent for Microsoft SharePoint ディレクトリに表示されます。dbasql.log は Backup Agent ディレクトリに格納されています。

バックアップの考慮事項

作成したら、直ちにデータベースをバックアップし、その後は、データベースまたはメディアに障害が発生したときに、スムーズかつ確実にデータベースを回復できるよう、定期的なバックアップをスケジュールします。 すべてのデータベースおよび内容を定期的にバックアップするようにします。

このリリースでバックアップ ジョブおよびリストア ジョブを実行する際、カタログ データベースを無効にしないでください。

バックアップを正常に実行するためには、以下の点を考慮してください。

- バックアップ中は、操作は許可されません。 コンポーネント A のフル バックアップを実行してから A の子コンポーネント B のフル バックアップを実行する場合は、コンポーネント A の差分バックアップは失敗します。 つまり、ファーム レベルのフル バックアップはファーム レベルの差分よりも先に実行されることがあります。 ただし、ファーム レベルのフル バックアップを SharePoint Provider Service フル バックアップより前に実行してからファーム差分バックアップを実行することはできません。 この場合は、差分ジョブは失敗してエラー メッセージが表示されます。
- Agent for Microsoft SharePoint 設定ウィザードに入力したユーザ名には、SharePoint サーバ ファームの全マシンへの管理者権限が必要です。
- SharePoint Server 2007 と同時に Microsoft SQL Server ツール、Central Administration Web サイトなどのツールを使用してバックアップを実行することはできません。 たとえば、これらのツールを使用してフル バックアップを実行する場合は、差分バックアップ ジョブをリストアできないことがあります。
- Agent for SharePoint や、Client Agent および Agent for SQL などのその他のエージェントを使用して SharePoint Server 2007 を保護しようとする場合は、SharePoint 2007 データは 2 度以上バックアップされることがあります。 この問題を回避するには、SharePoint 2007 データベースおよび Client Agent および Agent for SQL Server バックアップ ジョブからのファイルを除外する必要があります。
- Agent for Microsoft SQL Server と Agent for Microsoft SharePoint の両方を使用して Microsoft SQL データベースをバックアップする場合、[ツリー単位]の SharePoint 階層のバックアップ履歴には Agent for Microsoft SharePoint を使用して実行されたバックアップしか表示されません。[ツリー単位]の Microsoft SQL Server 階層のデータベースのバックアップ履歴には、両方のエージェントを使用して実行されたバックアップがすべて表示されます。 Agent for Microsoft SQL Server を使用する際にも同様になります。
- Agent for Microsoft SQL Server と Agent for Microsoft SharePoint のデータベース コンポーネントが同一マシンで両方展開されると、SharePoint データベースは Agent for Microsoft SQL Server または Agent for Microsoft SharePoint のいずれかで実行されたインスタンス全体のバックアップに含まれます。

SharePoint Server 2007 は以下をサポートしません。

- [グローバル オプション]の下のエージェント側でのデータの暗号化および圧縮。Sharepoint 2003 および 2007 のデータ暗号化は、CA ARCserve Backup サーバでのみサポートされています。
- バックアップ ジョブのマルチプレキシングおよびマルチストリーミング
- 異なる CA ARCserve Backup ドメインにある 2 つの異なるマシンのエージェントデータのバックアップ。

SharePoint 2003 は以下をサポートしません。

- SharePoint 2003 環境設定データベースをバックアップする際、[ログの末尾をバックアップし、データベースは復元中の状態にする]オプションは使用できません。 このオプションは、SharePoint 2003 データベースのバックアップでは使用可能です。

詳細情報

推奨されるバックアップ方法(41 ページ)

ローテーション スキーマとグローバル オプション

CA ARCserve Backup は、Agent for Microsoft SharePoint をバックアップする場合に、増分および差分グローバル オプションを使用します。これにより、ローテーション スキームを使用して、SharePoint データベースの差分バックアップとトランザクション ログのバックアップを実行し、各データベースの制限を動的に調整することができます。Sharepoint 2003 および 2007 のデータ暗号化は、CA ARCserve Backup サーバでのみサポートされています。

注: ローテーション スキーマと自動バックアップの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

以下のバックアップ方式を使用できます。

- フル バックアップ方式 - ターゲット データベースにバックアップ オプションを指定した場合は、それらのオプションが適用されます。 指定しなかった場合は、デフォルトでデータベースのフル バックアップが行われます。

- 差分バックアップ方式 - 差分バックアップには、次のルールが適用されます。
  - システム データベース(master、model、msdb など)をバックアップしている場合は、常にデータベースのフル バックアップが行われます。
  - Microsoft SQL Server に、ターゲット データベースの前回のフル バックアップ レコードがない場合は、データベースのフル バックアップが行われます。
  - ターゲット データベースで選択したバックアップ オプションに特定のデータベース ファイルおよびファイル グループの選択を含む場合は、ファイルおよびファイル グループの差分バックアップが実行されます。
  - それ以外の場合は、データベースの差分バックアップが行われます。
- 増分バックアップ方式 - 増分バックアップには、次のルールが適用されます。
  - システム データベース(master、model、msdb など)をバックアップしている場合は、常にデータベースのフル バックアップが行われます。
  - Microsoft SQL Server に、ターゲット データベースの前回のフル バックアップ レコードがない場合は、データベースのフル バックアップが行われます。
  - データベースで単純復旧モデルを使用している場合は、データベースの差分バックアップが行われます。
  - それ以外の場合は、切り捨てによるトランザクション ログのバックアップが行われます。

重要: バックアップを実行するとシステムの実行速度が低下する場合があります。 データベースが頻繁に更新されていないときにバックアップを実行するようにします。

詳細情報

推奨されるバックアップ方法(41 ページ)

データのバックアップ

CA ARCserve Backup のバックアップ マネージャを使用して、SharePoint 2003 システムのデータをバックアップします。

SharePoint 2003 システムのデータをバックアップする方法

1. バックアップ マネージャで、左のペインをブラウズし、Microsoft SharePoint Agent バックアップ ノードを展開します。

   ディレクトリ ツリーに SharePoint データが表示されます。

2. SharePoint バックアップ ノード全体またはバックアップする SharePoint データを選択します。

3. バックアップ オプションを設定または選択します。

   注: バックアップ オプションの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

4. [開始]をクリックします。

   SharePoint データベースを選択した場合は、[セキュリティおよびエージェント情報]ダイアログ ボックスが開きます。 必要に応じて、選択したデータベースの正しい認証情報を提供します。

   注: 認証は、バックアップ ジョブとパッケージ化されます。 バックアップ ジョブを実行するときは、この認証情報を指定する必要はありません。

5. [ジョブのサブミット]ダイアログ ボックスで[OK]をクリックします。

   選択した SharePoint データがバックアップされます。

詳細情報

統合ビュー(18 ページ)

データベースのバックアップ

CA ARCserve Backup のバックアップ マネージャを使用して、SharePoint 2003 システムでデータベースをバックアップします。

SharePoint 2003 システムでデータベースをバックアップする方法

1. サーバ上で Microsoft SQL Server が実行されていることを確認します。 Microsoft SQL Server サービスが開始されていることが必要です。

2. 必要に応じて、CA Backup Agent RPC Server サービスおよび CA Backup Agent リモート サービスを開始します。

   注: エージェントがインストールされており、マシンの再起動時に自動的に開始するように設定されている場合、これらのサービスは自動的に開始されます。

3. バックアップ マネージャを開き、Microsoft SharePoint Agent ノードを展開して、データベースのリストを表示します。

4. このジョブでバックアップするデータベースごとにこれらの手順を繰り返します。

   a. Microsoft SharePoint Agent ノードでデータベースを選択します。 バックアップ マネージャの右ペインに選択したデータベースの情報が表示されます。

      注: データベースを選択し、バックアップ オプションを正しく適用する方法については、「動的および明示的なジョブ パッケージ」を参照してください。

   b. データベース オブジェクトを右クリックし、コンテキスト メニューから[エージェント オプション]を選択します。 エージェント オプションが開きます。

c. 実行するバックアップの方式を選択します。 バックアップの種類の詳細については、「バックアップの種類」(40 ページ)を参照してください。

d. ファイル/ファイル グループまたはファイル/ファイル グループ、差分バックアップの種類を選択した場合は、[参照]または[ファイル/ファイル グループの参照]ボタンをクリックします。 [ファイル グループとファイルの選択]ダイアログ ボックスが開きます。

   バックアップするファイルおよびファイル グループを選択し、[OK]をクリックします。

e. 必要に応じて、[データベースの整合性チェック]オプションを選択します。 データベースの整合性チェックの詳細については、「データベースの整合性チェック」(47 ページ)および Microsoft SQL のマニュアルを参照してください。 [OK]をクリックします。

5. バックアップ マネージャの[デスティネーション]タブで、バックアップ先を選択します。

   注: バックアップ先を選択するときに、[グループ]フィールドまたは[メディア]フィールドで「*」記号を使用すると、部分的なワイルドカードを作成できます。 たとえば、GroupA および GroupB という 2 つのデバイス グループがあり、一方のグループはメンバ名がすべて「GroupA」で始まっており、他方のグループはメンバ名がすべて「GroupB」で始まっているとします。この場合、[グループ]フィールドに「GroupA*」と入力すると、GroupA のメンバすべてを選択できます。 デバイスやメディアを選択する方法の詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

6. [スケジュール]タブで、このバックアップ ジョブのスケジュール オプションを選択します。 バックアップのスケジューリングの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

7. [開始]をクリックします。

   [セキュリティおよびエージェント情報]ダイアログ ボックスが表示されます。

   注: このダイアログ ボックスの[エージェント]列と[エージェント]ボタンは、Client Agent for Windows を指しています。 このダイアログ ボックスでは、クライアント エージェントの情報を編集できます。 クライアント エージェントの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

8. ターゲット マシンと Microsoft SQL Server のユーザ名とパスワードを確認します。 Microsoft SQL Server のセキュリティ情報を変更するには、[セキュリティ]をクリックして表示されるダイアログ ボックスで必要な情報を変更します。

9. セキュリティ情報を確認または変更した後で、[OK]ボタンをクリックします。

   [ジョブのサブミット]ダイアログ ボックスが開きます。

10. [ジョブのサブミット]ダイアログ ボックスでは、必要に応じてジョブの実行時刻を指定したり、ホールド状態のジョブをサブミットしたり、バックアップ ジョブに説明を入力したり、ソース優先度を選択したりすることができます。

11. ［OK］をクリックします。

［ジョブ ステータス］ウィンドウが表示されます。 データベースがバックアップされると、このウィンドウには、情報が表示されます。

［ジョブ ステータス］ウィンドウの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

詳細情報

統合ビュー（18 ページ）

動的および明示的なジョブ パッケージ

CA ARCserve Backup には、バックアップ ジョブをパッケージまたはセットアップする方法として以下の 2 つの方法があります。

- 動的なジョブのパッケージ（53 ページ）
- 明示的なジョブのパッケージ（54 ページ）

動的なジョブのパッケージ

バックアップ ジョブを定義するときに親オブジェクトを動的なジョブ パッケージに指定すると、CA ARCserve Backup では、バックアップ ジョブの実行時に、自動的にこのオブジェクトのコンポーネントがすべてバックアップ対象として選択され、保護されます。

たとえば、Microsoft SharePoint Agent レベルでバックアップを選択し、動的なジョブ パッケージ用にエージェント オブジェクトをマークして新しいコンポーネントを追加すると、新しいコンポーネントは、次のバックアップ ジョブの実行時に含められます。

重要: ある親オブジェクトを動的なジョブ パッケージに指定すると、その配下のオブジェクト（サブ オブジェクト）も動的なジョブ パッケージに指定され、バックアップの対象として選択されます。 動的なジョブ パッケージに指定したオブジェクトのサブ オブジェクトに対して独自に指定していたオプションは、そのジョブがサブミットされるときにすべて無効になります。

オブジェクトの動的なジョブ パッケージ

CA ARCserve Backup でバックアップ マネージャを使用して、動的なジョブ パッケージのオブジェクトをマークします。

オブジェクトの動的なジョブ パッケージ方法

1. バックアップ マネージャの[ソース]タブで、ディレクトリ ツリーを展開し、動的にジョブをパッケージするオブジェクトを表示します。
2. そのオブジェクトの隣にある四角形をクリックします。

   オブジェクトのすべての子項目も、動的ジョブ パッケージとしてマークされます。

   このレベルでバックアップ オブジェクトを選択すると、新しいポータルなどの新しい項目を追加したとしても、ジョブの変更を必要とせずに、新しい項目が保護されます。

   個々のレベルで保護することも可能です。 たとえば、動的ジョブ パッケージ用にある 1 つのポータルが選択されている場合、データベースがこのポータルに追加されると、それらのデータベースもこのジョブに動的に含まれるようになることを意味します。

明示的なジョブのパッケージ

バックアップ ジョブを定義するときにデータベースまたはデータベース以外のオブジェクトを明示的に指定して、ジョブをパッケージする場合に、動的なジョブ パッケージ用のサブ オブジェクトの一部またはすべてをマークしますが、親オブジェクトはマークしません。

例: 明示的なジョブ パッケージ

たとえば、Microsoft SharePoint Agent ノードを選択すると、これは親であるため、動的にパッケージ化されます。 Portal_Server2 ノードで teamsitedb ノードの選択を解除すると、すべての 3 つのノード(teamsitedb、Portal_Server2、Agent)は、明示的にパッケージ化されます。 これは、新しいデータベースを Portal_Server2 ノード、または Microsoft SharePoint Agent ノードに新しい項目を追加すると、新しい項目またはデータベースは、バックアップ ジョブに自動的に含まれないことを意味します。

明示的なジョブ パッケージを使用すると、ローカルのバックアップ オプションをカスタマイズできます。 たとえば、サーバで Microsoft SharePoint Agent を動的にパッケージしたバックアップ ジョブを実行する場合は(サーバは明示的なパッケージ)、teamsitedb などの 1 つのコンポーネントでオプションのセットを選択し、設定データベースなどの別のコンポーネントで別のオプションを設定できます。

重要: データベース オプションをカスタマイズするには、明示的にデータベース項目をパッケージする必要があります。

オブジェクトの明示的なジョブ パッケージ

CA ARCserve Backup でバックアップ マネージャを使用して、動的なジョブ パッケージのオブジェクトをマークします。

オブジェクトの明示的なジョブ パッケージ方法

1. バックアップ マネージャの[ソース]タブで、ディレクトリ ツリーを展開し、明示的にジョブをパッケージするオブジェクトを表示します。
2. そのオブジェクトの下位にある各項目の隣にある四角形をクリックします。

   そのサブ オブジェクトの隣にある四角形は緑色になります。また、上位オブジェクトの隣にある四角形は半分が緑色、半分が白色になります。

   個々のレベルで保護することも可能です。 明示的なジョブ パッケージにノードが選択されている場合、このノードにデータベースが追加されたり、削除されたりした場合、これらのデータベースはこのジョブに含まれなくなることを意味します。

第 5 章: SharePoint 2007 システムのリストア

この章では、SharePoint 2007 システムのデータのリストアについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

リストアの概要 (57 ページ)
データベース レベルのリストア セット (57 ページ)
データベース レベルのリストア オプション ダイアログ ボックス (58 ページ)
データベース レベルのリストアの前提条件 (60 ページ)
データベース レベルのデータ リストアの実行 (61 ページ)

リストアの概要

以下のセクションでは、リストアを行う前に満たす必要のある前提条件の詳細、データベース レベルのバックアップからのリストア時の CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server 2007 の機能、およびリストア方法の手順について説明します。

データベース レベルのリストア セット

SharePoint Server をリストアするには、すべてのセッションをリストアする必要があります。これらのセッションをすべて合わせると、データを完全にリストアできます。 これらのセッションを「リストア セット」と呼び、以下のセッションが含まれます。

- フル バックアップ方式のみを使用した場合、リストア セットには、このフル セッションのみが含まれます。
- フル バックアップと差分バックアップの両方を使用した場合、リストア セットには、フル バックアップ セッションと 1 つの差分バックアップ セッションが含まれます。たとえば、以下のバックアップ シナリオでは、リストア セットはフルと差分 1、フルと差分 2、フルと差分 3、またはフルと差分 4 となります。

フル	差分 1	差分 2	差分 3	差分 4

- 差分バックアップからリストアする場合、差分バックアップ セッションのみを選択する必要があります。 CA ARCserve Backup では、前のフル バックアップを自動的に検索してから、フル バックアップおよび選択した差分バックアップのセッションの両方を検索します。

データベース レベルのリストア オプション ダイアログ ボックス

リストア ジョブを作成する場合、ジョブをカスタマイズするリストア オプションを指定できます。

デフォルトのリストア ダンプの場所

データをリストアする前に、リストア ダンプの場所を選択する必要があります。 リストアの場所から、CA ARCserve Backup は、SharePoint サーバに保存する前にデータを一時的に保存する場所がわかります。

注: リストア オプションを使用してリストアの場所を設定する場合、[Agent 設定]オプションを使用して設定した場所は適用されません。 以下のリストア ダンプの場所から選択できます。

エージェント デフォルトの設定の使用

このオプションによって、エージェントの設定中に選択した場所を利用できます。

CA ARCserve サーバ

SharePoint 2007 データを CA ARCserve Backup の共有フォルダにリストアします。

CA ARCserve SharePoint AGENT

SharePoint 2007 データを SharePoint Agent がインストールされている共有フォルダにリストアします。

その他の(NAS、File)サーバ名

SharePoint 2007 データを NAS サーバまたは File サーバの指定された共有フォルダにリストアします。

注: IP アドレスではなく、ホスト名を指定する必要があります。

リストア ダンプのパス

共有名

デフォルトのリストア ダンプの場所として[その他の(NAS、File)サーバ名]を選択する場合は、データのリストア先のサーバ名を指定する必要があります。 フォルダに対する必要な権限が付与されている必要があります。

注: 共有名の末尾には、特殊文字「$」を使わないでください。

物理パス

リストア ダンプの場所として CA ARCserve サーバまたは CA ARCserve SharePoint Agent を選択する場合は、データのリストア先のパスを指定する必要があります。

これらのオプションと設定方法の詳細については、「エージェントの SharePoint 2007 システムでの設定」を参照してください。

リストア環境設定

リストア環境設定を設定するには、リストア マネージャの[開始]ボタンを使用します。

このダイアログ ボックスには、以下の情報が含まれます。

リストアのタイプ

リストア後に同じリストア名と場所にすることもでき、別のリストア名と場所にすることもできます。

ログイン名とパスワード

ファーム、Web アプリケーション、および共有サービス プロバイダにログインできるように設定できます。 この機密情報は、データをリストアするのに常に必要です。

名前と場所

バックアップ ジョブがリストアされた後に新しい名前または場所になるコンポーネントが 1 つ以上あるように、名前または場所、またはその両方を設定します。

異なるコンポーネントの環境設定項目は、名前と場所が異なります。 以下の表には、コンポーネントと環境設定項目をリストします。

コンポーネント タイプ	環境設定項目	コメント
データベース	新しいデータベース サーバ名	データベースをリストアする SQL データベース サーバです。 これはエイリアス名の場合もあります。
	新しいディレクトリ名	SQL データベース ファイルを保存する新しい物理パスです。
	新しいデータベース名	リストア後の新しいデータベース名です。
UserProfileApplication	新しいサーバ名	リストア後の UserProfileApplication の新しい My Site アドレスです。
共有検索インデックス	新しいサーバ名	Office 検索インデックス サービスが実行されているコンピュータ名です。
	新しいディレクトリ名	インデックス ファイルが保存されている新しい物理パスです。
Web アプリケーション	新しい Web アプリケーションの URL	Web アプリケーションの Web サイトの URL
	新しい Web アプリケーション名	IIS に表示される新しい Web アプリケーションの名前です。

データベース レベルのリストアの前提条件

SharePoint Server 2007 でデータベース レベルのリストアを実行する前に、次の要件を満たす必要があります。

- Windows SharePoint Services Administrative サービスおよび Windows SharePoint Services Timer サービスがすべてのフロントエンド Web サーバおよびアプリケーション サーバで実行中であることを確認します。
- スタンドアロンのインストールではタイマ サービスを再起動します。
- 検索サービスおよびインデックスを新しい場所にリストアする場合は、リストアの開始前に検索サービスが実行中であることを確認します。
- Application Server Administration Service Timer Job、Application Server Timer Job および Shared Services Provider Synchronizing Job は、Web アプリケーションのリストア前の SharePoint 2007 Central Admin Utility の使用中は無効です。
- Web アプリケーションのすべてのコンテンツ データベースに固有の名前があることを確認してください。 2 つの Web アプリケーションが同じ名前のデータベースを使用し、その後リストアすると、2 番目のデータベースのデータが最初のデータベースのデータで上書きされます。
- 同時に複数のリストアを実行しないようにしてください。
- ファーム内のすべてのサーバが同じタイム ゾーンおよび夏時間を使用していることを確認してください。
- スタンドアロン インストールでは、リストア ジョブを実行する前に、以下のアカウントをローカルの管理者グループに追加してください。 リストア ジョブが完了したら、これらのアカウントを削除してください。
  - NT AUTHORITY¥LOCAL SERVICE
  - NT AUTHORITY¥NETWORK SERVICE

アカウントを追加する方法

1. ［コントロール パネル］ - ［管理ツール］ - ［コンピュータの管理］ - ［システム ツール］ - ［ローカル ユーザーとグループ］ - ［グループ］ - ［Administrators］を選択します。
2. ［追加］をクリックします。
3. 「NETWORK SERVICE」および「LOCAL SERVICE」と入力します。
4. ［OK］をクリックします。

データベース レベルのデータ リストアの実行

CA ARCserve Backup でバックアップ マネージャを使用し、データベース レベルのデータ リストアを実行します。

重要: コンテンツ データベースの名前はすべて一意にしてください。 コンテンツ データベースをリストアする前に、そのデータベースの名前が他の Web アプリケーションで使用されていないことを確認してください。 [セッション単位]方式を使用してコンテンツ データベースをリストアする際、同じデータベース名が 2 つの異なるアプリケーションで使用されていると、データベースのリストア ジョブは「成功」と表示されますが、2 番目のアプリケーションでデータベースの内容を上書きしてしまいます。

SharePoint Server 2007 データベースをリストアする方法

1. CA ARCserve Backup ホーム ページの[クイック スタート]メニューから[リストア]を選択します。

   [リストア マネージャ]ウィンドウが開きます。

2. [リストア マネージャ]ウィンドウから、以下の図のように、[ソース]タブの下にあるドロップダウン リストの[ツリー単位]で[リストア]を選択します。

   注: データベース レベルのリストアでは[ツリー単位]と[セッション単位]の両方がサポートされています。

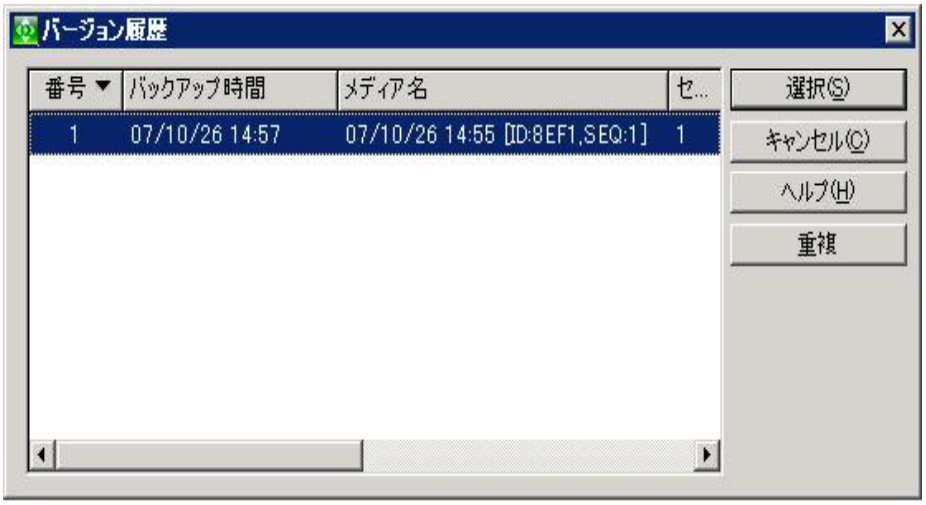
Microsoft SharePoint 2007 Agent の下 - データベース レベルのノードに複数のファーム オブジェクトがあることがあります。

シングル バックアップ ジョブのファームの下で複数のコンポーネントを選択する場合、複数のファーム オブジェクトが表示されます。 各ノードは、バックアップする選択されたコンポーネントと関連付けられます。 たとえば、Web アプリケーションおよび SharePoint プロバイダ サービスを選択する場合は、2 つのファーム オブジェクトが生成されます。 1 つのファーム オブジェクトには Web アプリケーションがあり、もう 1 つのファーム オブジェクトには SharePoint Provider サービスがあります。

同じファームまたはコンポーネントを複数回バックアップする場合は、このコンポーネントの最新バックアップを表示するファーム オブジェクトのみが表示されます。

3. ディレクトリ ツリーから、［Windows システム］オブジェクトを展開して、バックアップしたデータベースを含むファームを展開し、ファーム オブジェクトを選択します。

4. 最新バックアップがリストア対象のバックアップではない場合は、以下の図のように、［バージョン履歴］をクリックしてリストアするバージョンを選択し、［選択］をクリックします。



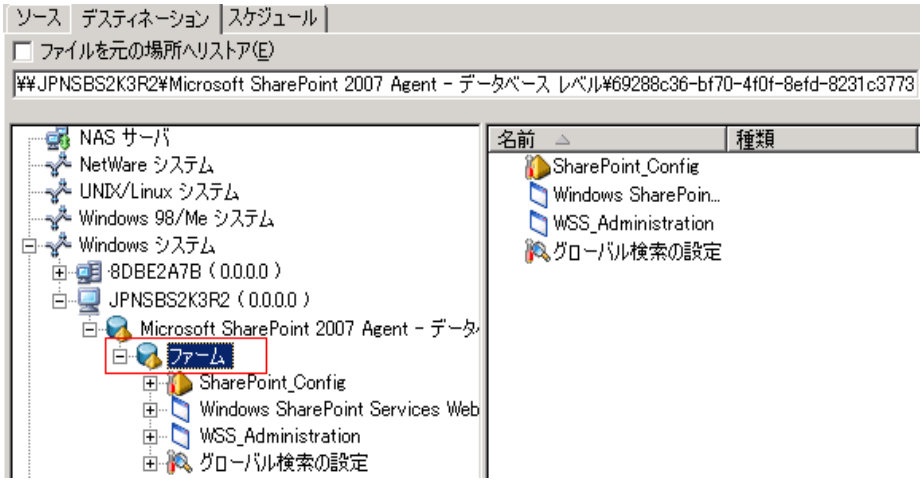
注: ［バージョン履歴］は SharePoint 2007 データベース レベルのオブジェクトおよびファーム オブジェクトで有効で、選択したコンポーネントのバックアップ履歴が表示されます。 SharePoint 2007 では、ID をベースにした一意のファーム コンポーネントを識別します。 この ID は、コンポーネントの名前が変更されている場合でも、変更されません。

5. このジョブに含める各ファーム オブジェクトを右クリックし、［エージェント オプション］を選択してリストア オプションを選択します。 リストア オプションの詳細については、「データベース レベルのリストア オプション」を参照してください。

6. ［デスティネーション］タブをクリックします。 データベース オブジェクトは元の場所（デフォルト）、または別の場所にリストアすることができます。

7. 別の場所にリストアする場合、[ファイルを元の場所にリストア]チェック ボックスをオフにして、[Windows システム] オブジェクトを展開し、リストア先のサーバを展開し、[Microsoft SharePoint 2007 – データベース レベル]オブジェクトを選択します。

   注: 別の場所にリストアする場合は、ファーム オブジェクトをリストア先として選択する必要があります。



8. ツールバーの[スタート]をクリックします。 [リストア環境設定]ダイアログ ボックスに必要な情報を入力します。

   別の場所にリストアする場合、[セキュリティ]ダイアログ ボックスが表示された後で、リストア先のサーバのユーザ名とパスワードを入力し、[OK]をクリックします。

9. [セッション ユーザ名およびパスワード]ダイアログ ボックスが開いたら、リストア先のユーザ名とパスワードを確認または変更します。 ユーザ名やパスワードを変更するには、セッションを選択し、[編集]ボタンをクリックします。変更を行い、[OK]をクリックします。

   注: ユーザ名は以下のフォーマットで入力する必要があります。

   <ドメイン>¥<ユーザ名>

10. [OK]をクリックします。

11. [ジョブのサブミット]ダイアログ ボックスが開きます。[即実行]を選択して今すぐジョブを実行するか、[実行日時指定]を選択してジョブを実行する予定の日時を選択します。

12. ジョブの説明を入力し、[OK]をクリックします。

重要: リストアの実行後、Internet Information Services (IIS)を再起動する必要があります。

第 6 章: SharePoint 2003 システムのリストア

この章では、SharePoint 2003 システムのデータのリストアについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

リストアの概要 (65 ページ)
リストア方式 (69 ページ)
リストア オプション (71 ページ)
リストア方式 (77 ページ)

リストアの概要

「リストア」とは、データベースまたはオブジェクトのバックアップから、データベースもしくは複数のデータベース以外のデータ オブジェクトをロードすることです。 データベースまたはデータベース以外のデータ オブジェクトが消失または破損した場合、最新のデータベースまたはデータベース以外のデータ オブジェクト バックアップをリロードすることによって、データベースをリストアできます。 リストアすると、データベース内の情報はバックアップ情報で上書きされます。

SharePoint データベースをリストアする場合は、データベースへの専用アクセス権が、リストア処理中に付与される必要があります。 ユーザまたはアプリケーションがリストア処理中にデータベースにアクセスしようとすると、リストア処理は失敗します。 ユーザがデータベースにアクセスできないようにする方法の 1 つとして、SharePoint がインストールされているすべてのマシンで以下の Microsoft SharePoint 関連のサービスを停止する方法があります。

Microsoft SharePoint Portal Server 2003 の場合:

- Microsoft SharePointPS Search Service
- SharePoint Timer Service
- SharePoint Portal Alert Service

- SharePoint Portal Administration Service
- Microsoft Single Sign-on Service（シングル サインオンを使用している場合）
- SharePoint Portal Server Document Management サービス（外部のドキュメント ライブラリを使用する場合）

これらのサービスの停止方法の詳細については、「Microsoft Office SharePoint Portal Server 2003 管理者ガイド」または「Microsoft Windows SharePoint Services 2.0 管理者ガイド」を参照してください。

詳細情報

リストア オプション（71 ページ）
リストア方式（77 ページ）

リストア操作

リストア マネージャを使用して、SharePoint データのリストア操作を実行します。 リストア マネージャを使用すると、以下の操作を実行できます。

- バックアップされたデータを参照する
- リストア オプションを設定する
- リストア ジョブのキューを作成する

さらに、SharePoint データを別の場所にリストアすることもできます。

データベース リストア

異なるデータベースは、異なる方法でリストアされます。 次に、異なる種類のデータベースとリストアの推奨方法について説明します。

データベース リストアの設定

SharePoint インストールには、1 つの構成データベースが含まれています。 このデータベースがないと（破損した場合など）、Windows SharePoint Service（WSS）または SharePoint Portal 2003 が正しく機能しなくなります。

データベースが使用中で、リストアには専用のアクセスが必要となるため、SharePoint の実行中は、このデータベースを元の場所にリストアすることはできません。 リストア中にエラー メッセージが表示されるのを防ぐには、次の方法のいずれかを使用します。

- 上記のすべての SharePoint サービスを停止します。
- すべてのフロントエンド Web サーバおよびアプリケーション サーバ上の World Wide Web Publishing Service を停止します。
- RouterManagement COM+ コンポーネントおよび EDA COM+ コンポーネントをシャットダウンします。
- データベースをリストアしてからサービスを再開します。
- データベースを新しい名前でリストアします。 SharePoint 管理ツールを使って、SharePoint マシンを古いデータベースから切り離し、新しい名前でリストアされるデータベースに接続します。

ポータル データベースのリストア

各ポータル サイトでは、以下の 3 つのデータベースが作成されます。

- Portal_SERV
- Portal_PROF
- Portal_SITE

注: Microsoft では、1 つのデータベースのみに問題があることが分かっている場合を除き、データベースをグループとしてリストアすることを推奨しています。

データベースのリストア操作を完了させるのに必要なデータベースへの専用アクセス権を得られない場合は、次のいずれかの方法を使用します。

- すべての SharePoint サービスを停止し、データベースをリストアしてから、サービスを再起動します。
- 既存のポータルを削除します。 データベースをリストアし、「Microsoft Office SharePoint Portal Server 2003 管理者ガイド」の「ポータル サイトのリストア」で説明されている手順に従います。

WSS とポータル コンテンツ データベースのリストア

Windows SharePoint Service (WSS) およびポータル コンテンツ データベースをリストアする場合には、以下の手順に従って排他的アクセスの問題を回避します。

WSS およびポータル コンテンツ データベースのリストア方法

1. SharePoint 管理の[管理コンテンツ データベース]ウィンドウを使用して、データベースを SharePoint から切り離します。
2. データベースをリストアします。
3. [管理コンテンツ データベース]ウィンドウを使用して、データベースを SharePoint に再接続します。

SharePoint シングル サインオン データベース

シングル サインオン データベースのリストア時に、専用アクセス権問題を避けるため、以下のいずれかの方法を使用します。

- Microsoft シングル サインオン サービスを停止します。
- データベースをリストアします。
- サービスを再起動します。
- データベースを新しい名前でリストアします。
- SharePoint サインオン管理ツールを使用して、新しいデータベースを使用します。

データベース以外のデータ リストア

SharePoint データベース以外のデータは、SharePoint データベースのリストアより制限がありません。 データベース以外のデータには、以下の種類のデータが含まれます。

- 後方互換性ドキュメント ライブラリのリストア - 後方互換性ドキュメント ライブラリを元の場所、または別の後方換性ドキュメント ライブラリにリストアできます。 サービスを停止する必要はありません(SharePoint Portal Server 2003 のみ)。

  重要: SharePoint Portal Server Document Manager サービスを実行していない場合は、リストアは失敗します。

- シングル サインオン環境設定ファイルのリストア - シングル サインオン環境設定ファイルを元の場所、または別の SharePoint シングル サインオン環境設定ファイルにリストアできます。 サービスを停止する必要はありません。

  重要: シングル サインオン サービスを実行していない場合は、リストアは失敗します。 また、シングル サインオン環境設定ファイルおよびシングル サインオン データベースを共にリストアすることはできません。 この 2 つは別々にリストアする必要があります。

- 検索インデックスのリストア - 検索インデックスを元の場所、または別の SharePoint 検索インデックス サーバにリストアできます。 サービスを停止する必要はありません。

  重要: SharePoint Portal Server Search サービスを実行していない場合は、リストアは失敗します。

注: 別の場所にリストアする場合は、ジョブの失敗を防ぐため、同じ種類のデスティネーション項目を選択する必要があります。 たとえば、後方互換性ドキュメント ライブラリは、別の後方互換性ドキュメント ライブラリにのみリストアできます。

リストア方式

Agent for Microsoft SharePoint は、データベース以外のデータおよびデータベースのリストアで異なるリストア方式をサポートしています。

- データベース以外の SharePoint データのリストアでは、エージェントはデータベース全体のリストアのみをサポートします。
- データベースのリストアでは、以下の種類のリストアがサポートされます。
  - データベース全体のバックアップ (69 ページ)
  - 差分バックアップのリストア (69 ページ)
  - トランザクション ログのリストア (70 ページ)
  - ファイルおよびファイル グループのリストア (70 ページ)
  - 部分的にリストア (71 ページ)

データベース全体のバックアップ

データベース全体のバックアップでは常に SharePoint Server 2003 データベース全体をリストアします。

差分バックアップのリストア

差分バックアップには、最後にフル バックアップを行った後に変更があったデータのみが含まれます。 フル バックアップ後に差分バックアップを複数回行っている場合、データベースを最新の状態にリストアする上で必要なのは最新の差分バックアップおよびフル バックアップのみです。

リストアに差分バックアップ セッションを選択すると、セッションの自動選択オプションにより、自動的に必要なデータベースのフル バックアップ セッションと適切なオプションが選択されます。 セッションの自動選択オプションを使用すると、正しいセッションを確実にリストアすることができます。 対応するセッションをユーザが手動で選択することもできますが、セッションの自動選択オプションを利用する方が操作を短時間で行うことができます。

差分バックアップのリストアの実行中に、リストア対象として指定したデータベースを使用しないでください。 指定したデータベースのデータはすべて、リストアされたデータで置き換えられます。 セッションの自動選択オプションを使用していない場合は、データベースはフル データベース リストアの読み込み状態になっている必要があります。

トランザクション ログのリストアとは異なり、差分リストアでは差分バックアップが作成された時点のデータまでしかリストアされません。 このリストアは、正確に障害が発生した時点や、特定の時点にデータベースをリストアする目的では使用できません。

トランザクション ログのリストア

トランザクション ログのバックアップからリストアする場合は、トランザクション ログ バックアップを、対応するフル データベース、差分バックアップ、またはファイル グループのバックアップへ適用する必要があります。 リストアする場合は、以下の順番でデータをリストアする必要があります。

- フル（データベース全体、部分、またはファイルとファイル グループ）バックアップのリストア
- 最後に行った差分バックアップがある場合は、それをリストアします。
- フルまたは差分バックアップから作成したトランザクション ログ バックアップをリストアします。

リストアするトランザクション ログのバックアップを選択すると、自動選択オプションにより、必要なトランザクション ログのバックアップ、差分バックアップ、およびデータベース全体のバックアップが選択され、それぞれに適切なオプションが自動的に設定されます。 セッションの自動選択オプションを使用すると、正しいセッションを確実にリストアすることができます。 対応するセッションをユーザが手動で選択することもできますが、セッションの自動選択オプションを利用する方が操作を短時間で行うことができます。

ファイルおよびファイル グループのリストア

個々のファイルおよびファイル グループは、ファイルまたはファイル グループのバックアップまたはデータベースのフル バックアップからリストアできます。 このオプションを使用する場合は、最後のファイルまたはファイル グループのリストアを行った直後に、トランザクション ログをデータベースに適用する必要があります。 これによってデータベースの整合性が保たれます。

リストアするファイルまたはファイル グループのバックアップを選択し、セッションの自動選択オプションを選択すると、リストアを正常に実行する上で必要なすべてのトランザクション ログのバックアップが自動的に選択されます。 セッションの自動選択オプションを使用すると、正しいセッションを確実にリストアすることができます。 対応するセッションをユーザが手動で選択することもできますが、セッションの自動選択オプションを利用する方が操作を短時間で行うことができます。

ファイルまたはファイル グループの差分バックアップを選択し、セッションの自動選択オプションを使用すると、その差分の基になったファイルまたはファイル グループのバックアップ セッション、およびリストアを正常に実行する上で必要なすべてのトランザクション ログのバックアップが選択されます。

部分的にリストア

部分的なリストアでは、プライマリのファイル グループ、およびユーザが指定したファイルとそれらに対応するファイル グループ群が、リストアされます。 結果としてそのデータベースのサブセットが作成されます。 リストアされなかったファイル グループは、オフラインとしてマークされアクセスできません。

リストア オプション

Agent for Microsoft SharePoint には、以下のデータベース リストア オプションが用意されています。

- セッションの自動選択
- リストア方式
- 既存のファイル上に強制的にリストア
- 回復完了状態
- ログによる Point-in-Time リストア
- データベース ファイルのリストア方法
- データベースの整合性チェック（DBCC）
- リストア後、ユーザのアクセスを制限する
- レプリケーションの設定を保持する
- SQL Agent フィルタ

注: これらのリストア オプションは、データベースのリストアで利用でき、データベース以外のコンポーネントのリストアには適用されません。

詳細情報

リストアの概要 (65 ページ)
リストア方式 (77 ページ)

自動選択オプション

セッションの自動選択オプションは、以下のオプションを選択します。

- リストア ジョブが正常に終了するために、リストアするセッションと共にリストアする必要のあるその他のセッション
- リストア ジョブに適切なオプション

デフォルトでは、セッションの自動選択オプションがすべてのデータベース リストア ジョブで有効になっています。 自動選択を使用すると、処理時間を短縮でき、リストア ジョブのパッケージでのエラーの発生を防止できます。

リストア方式オプション

リストア方式オプションでは、以下のリストア方式を選択できます。

- データベース: データベース全体、差分バックアップ、およびトランザクション ログ バックアップをリストアする場合に使用します。
- ファイルとファイル グループ: ファイルまたはファイル グループ バックアップのリストア、またはデータベース バックアップにあるファイルのリストアに使用します。トランザクション ログのバックアップや差分バックアップにあるファイルのリストアには使用しません。 [ファイルとファイル グループ]オプションを選択した後、リストアするファイルを選択します。
- 部分的にリストア: 以下のアクションを実行するために使用します。
  - データベースの一部を元の場所にリストア
  - 破損または消失したデータを元のデータベースにコピーできるように、データベースの一部を別の場所にリストア

  注: このオプションは、データベースのフル バックアップ セッションでのみ利用できます。

ファイルまたはファイル グループをリストアする要件

ファイルまたはファイル グループのバックアップをリストアした後は、トランザクション ログ セッションを適用して、データベース全体と整合性を保てるようにします。 したがって、ファイルまたはファイル グループをバックアップしたら、その直後に毎回トランザクション ログをバックアップしておく必要があります。

Microsoft SQL Server では、前回のバックアップ以降にインデックスを作成したすべてのファイル グループを一回の処理でリストアする必要があります。 ファイル グループのバックアップからリストアする場合であっても、データベースのフル バックアップからリストアする場合であっても、このことが必要条件になります。 Microsoft SQL Server は、ファイル グループのインデックスを認識して、リストアが必要なファイル グループの一覧を作成します。 この要件を満たしていない場合は、リストアの実行時に Microsoft SQL Server によってユーザに通知されます。 完全な結果には、Agent for Microsoft SharePoint アクティビティ ログを参照してください。

ファイルおよびファイル グループのリストアにおける要件の詳細については、Microsoft SQL Server のマニュアルを参照してください。

リストアの強制オプション

[既存のファイル上に強制的にリストア]オプションを使用すると、リストアしているデータベースの一部ではないと認識されたファイルが Microsoft SQL Server により上書きされます。「WITH REPLACE」オプションを使用することを求めるメッセージが Microsoft SQL Server から表示された場合のみ、このオプションを使用します。

Microsoft SQL Server は、データベースのリストアおよびファイルまたはファイル グループのリストア操作でこのオプションをサポートしています。

重要: Microsoft SQL 2005 Server にデータベースをリストアする前に、このオプションを確認します。

[回復完了状態]オプション

[回復完了状態]オプションを使用すると、セッション リストアの最終ステータスを、以下から選択して指定することができます。

[データベースは操作可能状態。 別のトランザクション ログのリストアは不可]

このオプションを選択すると、確定されていないトランザクションがリストア操作でロールバックされます。 データベースは回復処理後に使用できます。

注: セッションの自動選択オプションを使用している場合は、自動的に選択されたセッションで[回復完了状態]オプションを手動で選択する必要はありません。CA ARCserve Backup により、セッションと必要なオプションが自動的に選択されます。セッションの自動選択オプションを使用しない場合は、Microsoft SQL Server のリストア手順に関するルールに従う必要があります。 詳細については、Microsoft SQL Server のマニュアルを参照してください。

[データベースは操作不可状態。別のトランザクション ログのリストアは可能]

このオプションを選択すると、確定されていないトランザクションがリストア操作でロールバックされます。 ほかの差分バックアップまたはトランザクション ログを適用する場合は、このオプションまたは[データベースは読み取り専用。別のトランザクション ログのリストアは可能]オプションを選択する必要があります。 Microsoft SQL Server では、最後のリストア以外のすべてのリストアでこのオプションを使用する必要があります。 複数のトランザクション ログのリストアを伴うデータベースのリストアや複数のセッションを必要とするリストアでも、このオプションを使用する必要があります。たとえば、データベースをフル バックアップした後、差分バックアップを実行している場合などが該当します。

[データベースは読み取り専用。別のトランザクション ログのリストアは可能]

スタンバイ(ウォーム バックアップ)サーバを準備します。 スタンバイ サーバとは、プライマリ サーバに障害が発生したときにオンラインにできるセカンド サーバです。このサーバには、プライマリ サーバ上にあるデータベースのコピーが格納されます。スタンバイ サーバの詳細については、Microsoft SQL Server のマニュアルを参照してください。

[ログによる Point-in-Time リストア]オプション

[ログによる Point-in-Time リストア]オプションでは、指定した日時の状態にデータベースをリストアします。 このオプションを選択した場合は、セッションの自動選択も指定する必要があります。

重要: 回復対象のデータベースで一括ログ復旧モデルが使用されている場合は、[ログによる Point-in-Time リストア]オプションは使用できません。

[ログによる Point-in-Time リストア]オプションが選択された場合、必要なログを検出するために、Microsoft SQL Server はバックアップの開始時間と終了時間を格納する各トランザクション ログの記録をリストアします。 Microsoft SQL Server は、指定した時間のこの記録を検索し、以下の操作のいずれかを行います。

- Microsoft SQL Server が指定された時刻を検出した場合、ユーザが指定した日時の状態へログをリストアします。 エージェントが CA ARCserve Backup にリストアを停止するよう指示し、データベースが完全に復元されます。 同じ時間のログがほかにもある場合は、これらのログは無視され、後続のセッションはスキップされます。
- ログにこれらが含まれた後で特定の時間が来ると、Microsoft SQL Server がログをリストアし、データベースをリストア中状態のままにして、次のログ リストア操作を待機します。
- 指定されている時間がログで指定されている時間より前の場合は、Microsoft SQL Server はログをリストアできません。

[ログによる Point-in-Time リストア]オプションには制限があります。 たとえば、セッションの自動選択オプションではなく、既存のファイル上に強制的にリストアするオプションを選択した場合は、リストアするデータベースに属する 1 つ以上のログを選択して、最初にリストアするデータベース、差分バックアップ、およびファイル グループのセッションを選択しないと、ジョブは不完全な状態になり、そのデータベースの後続のセッションは無視されます。

[ログによる Point-in-Time リストア]で使用できるオプションは、以下のとおりです。

特定の日時で停止する

ユーザが特定の日時を指定できるフィールドがあります。 このオプションは、指定された日時の状態までデータベースを回復します。 デフォルトでは、このオプションが選択されています。

ログ マークの前で停止する

ユーザが特定の日時を指定できるフィールドがあります。 このオプションでは、指定されたマークの状態までデータベースを回復しますが、そのマークを伴うトランザクションは回復しません。 [特定の日時以降]チェック ボックスをオンにしていない場合は、指定したマークを伴う最初のトランザクションの前で回復が停止します。 [特定の日時以降]チェック ボックスをオンにした場合は、指定した日時以後の指定したマークを伴う最初のトランザクションで回復が停止します。

ログ マークで停止する

ユーザが特定の日時を指定できるフィールドがあります。 このオプションでは、指定されたマークの状態までデータベースを回復し、さらにそのマークを伴うトランザクションも回復します。 [特定の日時以降]チェック ボックスをオンにしていない場合は、指定したマークを伴う最初のトランザクションの前で回復が停止します。 [特定の日時以降]チェック ボックスをオンにした場合は、指定した日時以後の指定したマークを伴う最初のトランザクションで回復が停止します。

特定の日時以降

ユーザが特定の日時を指定できるフィールドがあります。 ログ マークのタイムスタンプが指定した時刻を過ぎた場合のみ、指定されたマークで回復が停止されます。 [ログ マークで停止する]または[ログ マーク前に停止する]オプションと共に使用します。

[データベース ファイルのリストア方法]オプション

[データベース ファイルのリストア方法]オプションを使用すると、以下の操作が可能になります。

- データベースのファイル リストおよび関連情報を表示
- ファイルとファイル グループのバックアップ セッション、またはデータベース バックアップ セッションの部分リストアまたはファイルとファイル グループからリストアするファイルを選択

- リストアするファイルの格納場所または名前の変更 格納場所を変更できるのは、データベース全体をリストアする場合、またはセッションの自動選択を使用している場合のみです。

データベースの整合性チェック(DBCC)オプション

リストア時のデータベースの整合性チェック オプションを有効にすると、以下のチェックが実行されます。

- DBCC CHECKDB - 指定したデータベース内にあるすべてのオブジェクトの配置と構造上の完全性をチェックします。 デフォルトでは、インデックスのチェックが行われます。これにより、実行時間が増加する場合があります。

  注: システム テーブルのインデックスは、このオプションの選択に関係なくチェックされます。

- DBCC CHECKCATALOG - 指定したデータベースの複数のシステム テーブル内、およびテーブル間の整合性をチェックします。

[リストア後、ユーザのアクセスを制限する]オプション

[リストア後、ユーザのアクセスを制限する]オプションでは、新しくリストアされたデータベースへのアクセスを、db_owner、dbcreator、sysadmin の各ロールのメンバに制限します。 このオプションは、[データベースは操作可能状態。別のトランザクション ログのリストアは不可]オプションと共に使用する必要があります。

[レプリケーションの設定を保持する]オプション

[レプリケーションの設定を保持する]オプションは、パブリッシュされたデータベースを、それが作成された場所ではないサーバにリストアする際に、レプリケーション設定を維持します。 その結果、Microsoft SQL Server では、データベースやログのバックアップがウォーム スタンバイ サーバにリストアされても、レプリケーションの設定がリセットされなくなります。 ログ配布と共に動作するようレプリケーションを設定する場合に、[レプリケーションの設定を保持する]オプションを使用します。

[データベースは操作不可状態。別のトランザクション ログのリストアは可能]オプションを指定してバックアップをリストアする場合、このオプションを選択することはできません。このオプションは、[データベースは操作可能状態。別のトランザクション ログのリストアは不可]オプションと共に使用する必要があります。

リストア方式

リストア マネージャを使用して、SharePoint Server 2003 データのリストア操作を実行します。 Agent for Microsoft SharePoint は、以下のリストア オプションをサポートしています。

- ［セッション単位］ - バックアップに使用したすべてのメディアとそこに格納されているファイルのリストが表示されます。 この方式では、リストア ジョブのオブジェクトをバックアップ セッションに基づいて選択できます。
- ［ツリー単位］ - リストア ジョブのオブジェクトを、データのバックアップ元のソースマシンに基づいて選択できます。 この方式を選択した場合、サーバの内容全体をまとめてリストアすることができないため、代わりに従属するすべてのオブジェクトを個々に選択する必要があります。 この方法は、必要なデータが格納されているメディアがどれなのか不明だが、リストア対象のデータおよびその格納先マシンがどれなのか検討がつく場合に使用します。 リストア マネージャではこの方式がデフォルトになっています。

注: ［照会単位］方式はサポートされていません。

詳細情報

リストアの概要 (65 ページ)
リストア オプション (71 ページ)

データのリストア

CA ARCserve Backup でリストア マネージャを使用して SharePoint データをリストアします。

SharePoint データのリストア方法

1. リストア マネージャで、［セッション単位］または［ツリー単位］方式を使用するソースデータを選択します。

   注: ［照会単位］方式はサポートされていません。

2. リストア デスティネーションを選択します。
3. リストア オプションを設定します。
4. リストア スケジュールを定義します。
5. リストア ジョブをサブミットします。

ツリー単位方式でのデータのリストア

CA ARCserve Backup でリストア マネージャを使用してデータベースおよびデータベース以外のデータをリストアします。

ツリー単位方式でのデータベースおよびデータベース以外のデータをリストアする方法

1. リストア マネージャの[ソース]タブで、ドロップダウン リストから、[ツリー単位]を選択します。
2. ナビゲーション ツリーで、Agent for Microsoft SharePoint ノードを展開し、リストアするノードを選択します。
3. (オプション)最新以外のバックアップを使用するには、[バージョン履歴]をクリックします。 [バージョン履歴]ダイアログ ボックスが開きます。

   [バージョン履歴]ダイアログ ボックスには、各バックアップ セッションが保存されているメディア名、バックアップのセッション番号、バックアップ方式、バックアップを行った日時に関する情報が表示されます。 [バージョン履歴]ダイアログ ボックスを使用すると、バックアップ メディアに保存されている特定のセッションを選択してリストアできます。
4. データベース セッションである場合は、選択したノードを右クリックし、ポップアップ メニューから[エージェント オプション]を選択します。

   エージェントの[リストア オプション]ダイアログ ボックスが開きます。 実際に表示されるダイアログ ボックスの内容は、リストア用に選択したセッションによって異なる場合があります。

   重要: エージェントの[リストア オプション]ダイアログ ボックスの[現在のセッションに必要な他の全セッションおよびオプションを自動的に選択する]オプションを使用すると、バックアップの種類に適合するリストア オプションが自動的に選択されます。
5. 以下のリストア オプションのうち 1 つを選択します。
   - セッションの自動選択オプションによって最適なリストア オプションを自動的に選択するには、[OK]ボタンをクリックします。 デフォルトでは、セッションの自動選択チェック ボックスがすべてのリストア ジョブでオンになっています。
   - このリストア セッションで使用するオプションを手動で選択し、[OK]をクリックします。
6. [ソース]タブに戻ったら、目的のセッションがリストア用に選択されていることを確認します。

7. ［デスティネーション］タブで、以下の方法のいずれかを使用してデスティネーションを選択します。
   - SharePoint データベースでは、以下のデスティネーションから 1 つ選択します。
     - 元の場所 - ［元の場所へリストア］オプションを選択します。
     - SQL インスタンス - データベースの名前を変更するか、保存場所を変更できます。［元の場所へリストア］チェックボックスをオフにし、デスティネーションを選択します。
     - 既存の SharePoint データベース - 既存のデータベースにリストアする場合は、リストア先のデータベースの内容がリストアされるデータで上書きされます。［元の場所へリストア］オプションをオフにし、デスティネーションサーバを選択し、上書きするデータベースを選択します。
   - SharePoint のデータベース以外のデータでは、以下のデスティネーションから 1 つ選択します。
     - 元の場所 - ［元の場所へリストア］オプションを選択します。
     - 別の場所にある同じタイプの Agent for Microsoft SharePoint - このデスティネーションを選択する場合は、ジョブの失敗を防ぐため、同じタイプのデスティネーション項目を選択する必要があります。 たとえば、後方互換性ドキュメント ライブラリは、別の後方互換性ドキュメント ライブラリにのみリストアできます。 デスティネーションの選択では、データが上書きされることに注意してください。
8. ［開始］をクリックします。

   ［セッション ユーザ名およびパスワード］ダイアログ ボックスが開きます。
9. Microsoft SQL Server がロードされている Windows マシンのユーザ名とパスワードを確認し、必要に応じて変更します。 ユーザ名とパスワードを確認または変更するには、以下の手順に従います。
   a. ［マシン］タブで、セッションを選択し、［編集］をクリックします。

      ［ユーザ情報］ダイアログ ボックスが開きます。
   b. ユーザ名とパスワードを確認し、必要に応じてそれらを入力または変更します。
   c. このセッションにセッション パスワードが割り当てられている場合は、そのセッション パスワードを入力します。
   d. 入力したユーザ名、パスワード、およびセッション パスワードを、これからリストアするすべてのセッションに適用する場合は、［［ユーザ名とパスワード］をすべてのセッションに適用］オプションを選択します。
   e. ［OK］をクリックします。

10. デスティネーション サーバのユーザ名とパスワードを確認し、必要に応じてそれらを変更します。 データベース サーバのユーザ名とパスワードを確認または変更するには、以下の手順に従います。

    a. ［DBAgent］タブで、セッションを選択し、［編集］をクリックします。

       ［ユーザ情報］ダイアログ ボックスが開きます。

    b. ユーザ名とパスワードを確認し、必要に応じてそれらを入力または変更します。

    c. 入力したユーザ名、パスワード、およびセッション パスワードを、これからリストアするすべてのセッションに適用する場合は、［［ユーザ名とパスワード］をすべてのセッションに適用］オプションを選択します。

    d. ［OK］をクリックします。

11. ［セッション ユーザ名およびパスワード］ダイアログ ボックスで［OK］ボタンをクリックします。

    ［ジョブのサブミット］ダイアログ ボックスが開きます。

12. （オプション）［ジョブのサブミット］ダイアログ ボックスでは、必要に応じてジョブの実行時刻を指定したり、ホールド状態のジョブをサブミットしたり、バックアップ ジョブに説明を入力したり、ソース優先度を選択したりすることができます。

13. ジョブをサブミットするには［OK］ボタンをクリックします。

    ［即実行］を選択した場合は、［ジョブ ステータス］ウィンドウが開きます。 このウィンドウを使用してジョブをモニタします。 ［ジョブ ステータス］ウィンドウの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

注:

Agent for Microsoft SQL Server と Agent for Microsoft SharePoint 2003 の両方を使用して Microsoft SQL データベースをバックアップする場合、［ツリー単位］の SharePoint 階層のバックアップ履歴には Agent for Microsoft SharePoint を使用して実行されたバックアップしか表示されません。［ツリー単位］の Microsoft SQL Server 階層のデータベースのバックアップ履歴には、両方のエージェントを使用して実行されたバックアップがすべて表示されます。

環境設定データベースの差分リストアを実行するには、［セッション単位］を使用する必要があります。 SharePoint 2003 の場合、エージェントは［ツリー単位］で差分リストアを実行するために必要な以前のフル バックアップを自動的に選択できません。

セッション単位方式でのデータのリストア

CA ARCserve Backup でリストア マネージャを使用してデータベースおよびデータベース以外のデータをリストアします。

セッション単位方式でのデータベースおよびデータベース以外のデータをリストアする方法

1. リストア マネージャの[ソース]タブで、ドロップダウン リストから[セッション単位]を選択します。

   CA ARCserve Backup でバックアップしたときに使用したメディアが一覧表示されます。

2. リストアするバックアップが保存されているメディアを選択し、リストアするデータベースまたはログが含まれているセッションを選択します。

   注: リストアする各データベースおよびデータベース以外のデータ コンポーネントで、別のセッション リストアを実行する必要があります。

   データベース以外のデータ コンポーネントをリストアする場合は、ステップ 4 に進みます。

3. (オプション)データベースをリストアする場合は、以下の手順に従います。

   a. リストアするデータベースまたはログが含まれているセッションを右クリックし、ポップアップ メニューから[エージェント オプション]を選択します。

      エージェントの[リストア オプション]ダイアログ ボックスが開きます。 実際に表示されるダイアログ ボックスの内容は、リストア用に選択したセッションによって異なる場合があります。

   b. セッションの自動選択オプションによって最適なリストア オプションを自動的に選択するには、[OK]ボタンをクリックします。 または、手動でこのリストア ジョブに使用するオプションを選択し、[OK]をクリックします。

4. [ソース]タブに戻ったら、目的のセッションがリストア用に選択されていることを確認します。

5. ［デスティネーション］タブで、以下の方法のいずれかを使用してデスティネーションを選択します。
   - SharePoint データベースでは、以下のデスティネーションから 1 つ選択します。
     - 元の場所 - ［元の場所へリストア］オプションを選択します。
     - SQL インスタンス - データベースの名前を変更するか、保存場所を変更できます。［元の場所へリストア］チェックボックスをオフにし、デスティネーションを選択します。
     - 既存の SharePoint データベース - 既存のデータベースにリストアする場合は、リストア先のデータベースの内容がリストアされるデータで上書きされます。［元の場所へリストア］オプションをオフにし、デスティネーションサーバを選択し、上書きするデータベースを選択します。
   - SharePoint のデータベース以外のデータでは、以下のデスティネーションから 1 つ選択します。
     - 元の場所 - ［元の場所へリストア］オプションを選択します。
     - 別の場所にある同じタイプの Agent for Microsoft SharePoint - このデスティネーションを選択する場合は、ジョブの失敗を防ぐため、同じタイプのデスティネーション項目を選択する必要があります。 たとえば、後方互換性ドキュメント ライブラリは、別の後方互換性ドキュメント ライブラリにのみリストアできます。 デスティネーションの選択では、データが上書きされることに注意してください。
6. ［開始］をクリックします。

   ［セッション ユーザ名およびパスワード］ダイアログ ボックスが開きます。
7. Microsoft SQL Server がロードされている Windows マシンのユーザ名とパスワードを確認し、必要に応じて変更します。 ユーザ名とパスワードを確認または変更するには、以下の手順に従います。
   a. ［マシン］タブで、セッションを選択し、［編集］をクリックします。

      ［ユーザ情報］ダイアログ ボックスが開きます。
   b. ユーザ名とパスワードを確認し、必要に応じてそれらを入力または変更します。
   c. このセッションにセッション パスワードが割り当てられている場合は、そのセッション パスワードを入力します。
   d. 入力したユーザ名、パスワード、およびセッション パスワードを、これからリストアするすべてのセッションに適用する場合は、［［ユーザ名とパスワード］をすべてのセッションに適用］オプションを選択します。
   e. ［OK］をクリックします。

8. デスティネーション サーバのユーザ名とパスワードを確認し、必要に応じてそれらを変更します。 データベース サーバのユーザ名とパスワードを確認または変更するには、以下の手順に従います。

   a. [DBAgent]タブで、セッションを選択し、[編集]をクリックします。

      [ユーザ情報]ダイアログ ボックスが開きます。

   b. ユーザ名とパスワードを確認し、必要に応じてそれらを入力または変更します。

   c. 入力したユーザ名、パスワード、およびセッション パスワードを、これからリストアするすべてのセッションに適用する場合は、[[ユーザ名とパスワード]をすべてのセッションに適用]オプションを選択します。

   d. [OK]をクリックします。

9. [セッション ユーザ名およびパスワード]ダイアログ ボックスで[OK]ボタンをクリックします。

   [ジョブのサブミット]ダイアログ ボックスが開きます。

10. (オプション)[ジョブのサブミット]ダイアログ ボックスでは、必要に応じてジョブの実行時刻を指定したり、ホールド状態のジョブをサブミットしたり、バックアップ ジョブに説明を入力したり、ソース優先度を選択したりすることができます。

11. ジョブをサブミットするには[OK]ボタンをクリックします。

    [即実行]を選択した場合は、[ジョブ ステータス]ウィンドウが開きます。 このウィンドウを使用してジョブをモニタします。 [ジョブ ステータス]ウィンドウの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

セッションの自動選択を使用した、ディスクの代替場所へのデータのリストア

エージェントの[リストア オプション]ダイアログ ボックスにデータ ファイルのファイル パスのエントリが表示されている場合にのみ、セッションの自動選択オプションを使用していても、データベースをディスクの別の場所にリストアできます。たとえば、ドライブ文字やディレクトリ パスが異なる場所へのリストアや、別のファイル名でのリストアができます。

セッションの自動選択を使用してデータベースまたはセッションを別の場所にリストアできるかどうかの判断方法

1. ツリー単位のリストアの場合は、データベースを右クリックします。セッション単位のリストアの場合は、このデータベースの最新のバックアップ セッションを右クリックします。

2. ポップアップ ウィンドウから[エージェント オプション]を選択します。 エージェントの[リストア オプション]ダイアログ ボックスが開きます。

3. [データベース ファイルのリストア方法]というセクションに、ファイル グループおよびデータ ファイルが表示される場合は、セッションの自動選択を使用できます。

ディスクの代替場所への[セッション単位]のリストア

[データベース ファイルのリストア方法]セクションにファイル グループとデータ ファイルが表示されていない場合、セッションをディスクの代替場所にリストアするには、それらのセッションを個別にリストアする必要があります。 セッションをディスクの代替場所に個別にリストアするには、以下のいずれかの方式を使用します。

- [セッション単位]のリストアを 1 回のリストア ジョブで実行する(85 ページ)
- [セッション単位]のリストアを、セッションごとに個別のリストア ジョブで実行する(84 ページ)

[セッション単位]のリストアを、セッションごとに個別のリストア ジョブで実行する

データベースをセッションごとの個別のジョブでリストアする場合、各ジョブをホールド状態にして、ジョブが 1 つ終了するたびに、その次のジョブを個別に実行するようにします。

データベース リストア ジョブを個別のジョブとしてパッケージする方法

1. リストア マネージャの[ソース]タブで、ドロップダウン リストから[セッション単位]を選択します。 CA ARCserve Backup でバックアップしたときに使用したメディアが一覧表示されます。
2. リストアするバックアップが格納されているメディアを選択し、そのバックアップが含まれているセッションを展開して、リストアするデータベースの最新のフル バックアップ セッションを選択します。 これ以降のバックアップ セッションは、この最新のフル バックアップセッションに依存することになります。
3. バックアップ セッションを右クリックし、ポップアップ ウィンドウから[エージェント オプション]を選択します。 エージェントの[リストア オプション]ダイアログ ボックスが開きます。
4. セッションの自動選択オプションをオフにし、ファイル名またはパスを適宜変更します。
5. [回復完了状態]で[データベースは操作不可状態。別のトランザクション ログのリストアは可能]オプションを選択します。
6. [OK]をクリックして[エージェント リストア オプション]ダイアログ ボックスを閉じ、リストア ジョブをサブミットします。
7. リストアするデータベースの次のセッションを選択します。
8. バックアップ セッションを右クリックし、ポップアップ ウィンドウから[エージェント オプション]を選択します。 エージェントの[リストア オプション]ダイアログ ボックスが開きます。
9. セッションの自動選択オプションをオフにします。

10. これがリストアする最後のセッションでない場合は、[回復完了状態]の[データベースは操作不可状態。別のトランザクション ログのリストアは可能]オプションを選択します。

    これがリストアする最後のセッションである場合は、[データベースは操作可能状態。別のトランザクション ログのリストアは不可]オプションが、[回復完了状態]のもとで選択されていることを確認します。

11. [OK]をクリックして、エージェントの[リストア オプション]ダイアログ ボックスを閉じ、リストア ジョブをサブミットします。 [セッション単位]のリストア方法については、この章の該当するセクションを参照してください。

12. エージェントの[リストア オプション]ダイアログ ボックスが閉じる時点まで手順を繰り返し、すべてのバックアップ ジョブがリストア用にサブミットされるまで、リストア ジョブをサブミットします。

    注: 次のジョブをオプションを選択する前に、前の選択をオフにしてください。

[セッション単位]のリストアを 1 回のリストア ジョブで実行する

CA ARCserve Backup のリストア マネージャを使用して、1 回のリストア ジョブでセッション単位のリストアを実行します。

1 回のリストア ジョブでセッション単位のリストアを実行する方法

1. リストア マネージャの[ソース]タブで、ドロップダウン リストから[セッション単位]を選択します。 CA ARCserve Backup でバックアップしたときに使用したメディアが一覧表示されます。

2. リストアするバックアップが格納されているメディアを選択し、そのバックアップが含まれているセッションを展開して、現在のバックアップ セッションを選択します。

3. バックアップ セッションを右クリックし、ポップアップ ウィンドウから[エージェント オプション]を選択します。 エージェントの[リストア オプション]ダイアログ ボックスが開きます。

4. セッションの自動選択チェック ボックスをオフにし、[回復完了状態]で[データベースは操作不可状態。別のトランザクション ログのリストアは可能]オプションを選択します。

   注: このオプションが選択されていない場合は、別のトランザクション ログのリストアはできません。

5. [OK]をクリックします。

6. データベースの必要な追加バックアップでは、2 番目に新しいセッションを選択し、エージェントの[リストア オプション]ダイアログ ボックスを開き、セッションの自動選択をオフにして、[回復完了状態]で[データベースは操作不可状態。別のトランザクション ログのリストアは可能]オプションを選択します。 [OK]をクリックします。

7. 初回バックアップ セッションは、他のバックアップ セッションが依存しているフル バックアップ セッションなので、ファイルのパスおよび名前を適宜変更します。

   重要: フル バックアップ セッション以外のセッションでは、ファイルの名前またはパスを編集しないでください。

8. リストア ジョブのパッケージを完了して、リストア ジョブをサブミットします。［セッション単位］のリストア方法については、このガイドの該当するセクションを参照してください。

データベースの代替 Microsoft SQL システムへのリストア

リストア マネージャを使用して、Microsoft SQL Server がインストールされている別のマシンにデータベースをリストアします。

Microsoft SQL Server がインストールされている別のマシンにデータベースをリストアするには、以下の手順に従います。

1. リストア マネージャの［ソース］タブで、ドロップダウン リストから［セッション単位］を選択します。

   CA ARCserve Backup でバックアップしたときに使用したメディアが一覧表示されます。

2. リストアするバックアップが保存されているメディアを選択し、リストアするデータベースが含まれているセッションを選択します。

3. リストアするデータベースが含まれているセッションを右クリックし、ポップアップ ウィンドウから［エージェント オプション］を選択します。

4. ［ソース］タブに戻ったら、目的のセッションがリストア用に選択されていることを確認します。

5. ［デスティネーション］タブで、［ファイルを元の場所へリストア］チェック ボックスをオフにします。

6. ディレクトリ ツリーで、Windows Systems オブジェクトを展開し、デスティネーション サーバを選択します。

7. Microsoft SharePoint Agent ノードを展開し、バックアップしたデータベースを含むファームを展開して、ファーム オブジェクトを選択します。

   ［ファイルを元の場所へリストア］の下のリストア先が、正しく表示されていません。

8. 正しいリストア先を以下のフォーマットで入力してください。

   ¥¥<データベースサーバマシン名>¥dbasql@<SQL Server インスタンス名>¥<データベース名>

   SQL サーバ インスタンス名がデフォルト名の場合、リストア先は「¥¥<データベースサーバマシン名>¥dbasql@<SQL Server インスタンス名>¥<データベース名>」になります。

9. ［開始］をクリックします。

   ［セッション ユーザ名およびパスワード］ダイアログ ボックスが開きます。

10. Microsoft SQL Server がロードされている Windows マシンのユーザ名とパスワードを確認し、必要に応じて変更します。 ユーザ名とパスワードを確認または変更するには、以下の手順に従います。

    a. ［マシン］タブで、セッションを選択し、［編集］をクリックします。

       ［ユーザ情報］ダイアログ ボックスが開きます。

    b. ユーザ名とパスワードを確認し、必要に応じてそれらを入力または変更します。

    c. このセッションにセッション パスワードが割り当てられている場合は、そのセッション パスワードを入力します。

    d. 入力したユーザ名、パスワード、およびセッション パスワードを、これからリストアするすべてのセッションに適用する場合は、［［ユーザ名とパスワード］をすべてのセッションに適用］オプションを選択します。

    e. ［OK］をクリックします。

11. デスティネーション サーバのユーザ名とパスワードを確認し、必要に応じてそれらを変更します。 データベース サーバのユーザ名とパスワードを確認または変更するには、以下の手順に従います。

    a. ［DBAgent］タブで、セッションを選択し、［編集］をクリックします。

       ［ユーザ情報］ダイアログ ボックスが開きます。

    b. ユーザ名とパスワードを確認し、必要に応じてそれらを入力または変更します。

    c. 入力したユーザ名、パスワード、およびセッション パスワードを、これからリストアするすべてのセッションに適用する場合は、［［ユーザ名とパスワード］をすべてのセッションに適用］オプションを選択します。

    d. ［OK］をクリックします。

12. ［セッション ユーザ名およびパスワード］ダイアログ ボックスで［OK］ボタンをクリックします。

    ［ジョブのサブミット］ダイアログ ボックスが開きます。

13. （オプション）［ジョブのサブミット］ダイアログ ボックスでは、必要に応じてジョブの実行時刻を指定したり、ホールド状態のジョブをサブミットしたり、バックアップ ジョブに説明を入力したり、ソース優先度を選択したりすることができます。
14. ジョブをサブミットするには［OK］ボタンをクリックします。

    ［即実行］を選択した場合は、［ジョブ ステータス］ウィンドウが開きます。 このウィンドウを使用してジョブをモニタします。 ［ジョブ ステータス］ウィンドウの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

第 7 章: 推奨事項

このセクションでは、SharePoint 2007 システムで CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint を使用する際の推奨事項について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

適切な場所の選択方法(89 ページ)
ダンプの場所へのアクセス権の設定(90 ページ)

適切な場所の選択方法

バックアップおよびリストアの両方にとって適切な場所を選択する必要があります。 以下の考慮事項が適用されます。

- ディスク上の空き容量—The Agent for SharePoint 2007 は、バックアップおよびリストア中にダンプの場所でデータを保存します。 バックアップするコンポーネントすべてを保持するのに十分なディスク容量があることを確認します。 バックアップ ジョブに必要なディスク容量を確認したい場合は、バックアップ マネージャを開いて、バックアップするコンポーネントを選択して、必要なディスク容量を確認します。

必要なオブジェクト ディスク サイズ	3,318,633,869 バイト

- 使用可能なネットワーク帯域幅 - ネットワーク トラフィックおよびかかるコストによって、差分ダンプの場所の使用可能なネットワーク帯域幅を選択する必要があります。以下の点を考慮してください。
  - CA ARCserve サーバは、データを 1 度だけ転送するため、あまりコストがかかりません。
  - CA ARCserve SharePoint Agent (ローカル マシン)およびその他(NAS、File)サーバ名は、データを 2 度転送することがあるので、コストがかかります。
- ARCserve サーバおよび SharePoint 2007 Agent の場所 - CA ARCserve SharePoint Agent (ローカル マシン)およびその他(NAS、File)サーバ名は、以下の 4 つのシナリオをすべてサポートします。
  - エージェントおよびサーバは、1 つのウィンドウ ドメインにインストールされます。
  - エージェントおよびサーバは、2 つの異なるドメインにインストールされ、ドメインはもう 1 つのドメインを信頼します。
  - エージェントおよびサーバは、異なる Windows ドメインにインストールされ、信頼関係はありません。

- エージェントまたはサーバの片方がワークグループにインストールされ、もう片方はドメインにインストールされます。

注: CA ARCserve サーバは、上記の最初の 2 つのシナリオのみをサポートします。

ダンプの場所へのアクセス権の設定

以下の表内のアカウントは、共有フォルダにアクセスできます。

アカウント	バックアップに関するダンプの場所のアクセス権	バックアップに関するダンプの場所のアクセス権
データベース サーバの SQL アカウント	フル コントロール以外のすべてのアクセス権	読み取り権限
タイマ サービス アカウント	フル コントロール以外のすべてのアクセス権	読み取り権限
セントラル管理プールアカウント	フル コントロール以外のすべてのアクセス権	フル コントロール以外のすべてのアクセス権

データベース サーバの SQL アカウントがローカル システム上にある場合は、必要な権限を SQL サーバ コンピュータに付与する必要があります。 共有フォルダへのアクセス権を割り当てられているユーザを確認したい場合は、バックアップ マネージャを開き、アカウントを選択して、共有フォルダへのアクセス権のあるユーザのリストを確認します。

バックアップ リストア共有フォルダ権限ユーザ リスト	Arthur (Arthur-W35-2)

付録 A: 惨事復旧

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

SharePoint 2003 システムでのエージェントによる惨事復旧のサポート方法 (91 ページ)
フロントエンド Web サーバのリストア (92 ページ)
後方互換性ドキュメント ライブラリ サーバのリストア (93 ページ)
検索インデックス サーバのリストア (93 ページ)
データベース サーバのリストア (94 ページ)
SharePoint 2007 システム上でのデータベース レベルの惨事復旧の実行方法 (95 ページ)

SharePoint 2003 システムでのエージェントによる惨事復旧のサポート方法

典型的な惨事復旧シナリオでは、マシンを再構築し、Agent for Microsoft SharePoint を再インストールする前に、Windows と CA ARCserve Backup を再インストールする必要があります。

Agent for Microsoft SharePoint は、ユーザのデータを保護するだけで、ソフトウェアやコンピュータの構成、SharePoint インストールがホストされているコンピュータは保護しません。 惨事復旧の場合は、これらのマシンを復旧させ、SharePoint データをリストアする前に、Agent for Microsoft SharePoint が実行されていることを確認します。

SharePoint インストールでは、異なるサーバが以下の役割を担います。

- フロントエンド Web サーバ (92 ページ)
- 後方互換性ドキュメント ライブラリ サーバ (93 ページ)
- 検索インデックス サーバ (93 ページ)
- データベース サーバ (94 ページ)

これらの役割は、異なるサーバに割り当てるか、シングルサーバ構成の場合は、1 台のコンピュータに割り当てます。 サーバによって実行される役割は、惨事復旧をサポートするために必要なものを決定します。

フロントエンド Web サーバのリストア

フロントエンド Web サーバには、Agent for Microsoft SharePoint で保護されていない SharePoint インストールの復旧に必要なカスタマイズされたデータが保存されています。惨事が発生した場合に完全な復旧を可能にするには、この情報を保護します。 バックアップするファイルおよびデータには、以下が含まれます。

- IIS メタベース
- SharePoint の拡張仮想サーバ ルート ディレクトリ
- カスタム Web パート アセンブリ
- カスタムの SharePoint テンプレートおよび構成ファイル
- SharePoint サイトで使用されるすべてのアドオン ソフトウェア

この情報は、Client Agent for Windows を使ってすべて完全に保護できます。 このエージェントの使用についての詳細は、「Client Agent ユーザ ガイド」を参照してください。

フロントエンド Web サーバのリストア方法

1. サーバをリストアまたは再構築します。
2. IIS メタベースとツリーでその上にリストされているその他のファイルをリストアします。
3. SharePoint Portal Server ソフトウェアをインストールします。
4. サーバ ファーム構成データベースに接続し、Web サーバとして新しいサーバをトポロジに追加します。
5. このサーバが SharePoint Router Agent がインストールされているフロントエンドの Web サーバである場合は、CA ARCserve Backup for Microsoft SharePoint 環境設定ウィザードを使用して、SharePoint Router Agent をインストールします。

サーバを再構築する必要がある場合は、これらの項目をリストアする前に、オペレーティング システム、Windows SharePoint Service、SharePoint Portal 2003、すべての SharePoint サービス パックをインストールします。 これで、サーバを、サーバ ファーム用の既存の構成データベースに接続し、再構築されたサーバを Web サーバとして、SharePoint サーバ トポロジに追加できます。

後方互換性ドキュメント ライブラリ サーバのリストア

CA ARCserve Backup を使用して、後方互換性ドキュメント ライブラリ サーバをリストアできます。

後方互換性ドキュメント ライブラリ サーバをリストアする方法

1. SharePoint Portal Server 中央管理を使用して、すべてのドキュメント ライブラリを削除します。
2. サーバ ファーム トポロジからドキュメント ライブラリ サーバを削除します。
3. サーバをリストアまたは再構築し、後方互換性ドキュメント ライブラリ コンポーネントをインストールします。
4. SharePoint トポロジにサーバを追加します。
5. 同じ後方互換性ドキュメント ライブラリ名を持つ、新しい後方互換性ドキュメント ライブラリを作成します。
6. CA ARCserve Backup for Microsoft SharePoint 環境設定ウィザードを使用して、SharePoint External Data Agent をインストールします。
7. 後方互換性ドキュメント ライブラリのリストア

注: 後方互換性ドキュメント ライブラリを、ソース マシンとは異なる Exchange ストレージ エンジンのバージョンを実行しているリモート マシン上の別の場所にリストアすると、リモート マシンの SharePoint Portal Server Document Management サービスが失敗します。 これを回避するには、ソース マシンで実行している Exchange ストレージ エンジンのバージョンと同じバージョンをリモート マシンで実行する必要があります。

検索インデックス サーバのリストア

CA ARCserve Backup を使用して、検索インデックス サーバをリストアできます。

検索インデックス サーバのリストア方法

1. サーバ ファーム トポロジからサーバを削除します。
2. サーバをリストアまたは再構築して、SharePoint Portal Server ソフトウェアとすべての SharePoint サービス パックをインストールします。

3. サーバ ファーム構成データベースに接続し、インデックス サーバとして新しいサーバをトポロジに追加します。
4. CA ARCserve Backup for Microsoft SharePoint 環境設定ウィザードを使用して、SharePoint External Data Agent をインストールします。
5. SharePoint 検索インデックス ファイルを新しいサーバにリストアします。

   注:検索インデックスのバックアップまたはリストアを実行すると、パフォーマンスが低下することがあります。Microsoft SharePoint Portal Server のハードウェア最小要件しか満されていない場合には、これらの操作によって CPU リソースを 100% 使用する可能性があるためです。 ハードウェア要件の詳細については、「Microsoft SharePoint Portal Server 管理者ガイド」を参照してください。

データベース サーバのリストア

CA ARCserve Backup を使用して、Microsoft SQL Server 2000 または 2005 をリストアできます。

Microsoft SQL Server 2000 または 2005 のリストア方法

1. Microsoft SQL Server 2000 または 2005 が障害の前と同じ状態に構成されるように、サーバをリストアまたはリビルドします。
2. SharePoint 中央管理ツールを使用して、新しい構成データベースを作成します。
3. すべての SharePoint マシンを新しい構成データベースに接続し、SharePoint トポロジを故障前の状態に戻します。
4. CA ARCserve Backup for Microsoft SharePoint 環境設定ウィザードを使用して、復旧したサーバで SharePoint SQL Agent をインストールします。
5. 以下の 2 つオプションのいずれかを実行します。
   - 古い構成データベースを含むすべての SharePoint データベースをリストアします。
   - 構成データベースを除くすべての SharePoint データベースをリストアします。

   構成データベースが他の SharePoint データベースと同期しなくなる可能性があるため、Microsoft では 1 つ目のオプションは推奨していません。 ただし、バックアップが実行されたときに、サイトやポータルが作成または削除されていない場合は、リストアは正しく動作するはずです。

   2 つ目のオプションを使用する場合は、SharePoint データベースをリストアした後、「Microsoft SharePoint Portal Server 2003 管理者ガイド」および「Microsoft Windows SharePoint Services 2.0 管理者ガイド」に説明されている手順に従い、SharePoint ポータルおよび仮想サーバをリストアする必要があります。

MSDE を使ったシングルサーバ インストールのリストア

リストアしたマシンで MSDE または SQL 2005 Express を正常に実行できない場合は、MSDE または SQL 2005 Express を使用したシングル サーバ インストール用の手順は多少異なります。 この問題を解決するには、以下の手順に従います。

MSDE または SQL 2005 Express を使用してシングル サーバ インストールをリストアする方法

1. サーバをリストアまたは再構築します。
2. SharePoint Portal 2003 または Windows SharePoint Service とすべての SharePoint サービス パックを再インストールし、MSDE または SQL 2005 Express インストールを再作成して、構成データベースを作成します。
3. CA ARCserve Backup for Microsoft SharePoint 環境設定ウィザードを使用して、必要な Agent for Microsoft SharePoint コンポーネントをインストールします。
4. 構成データベースを除くすべての SharePoint データベースをリストアします。

   「Microsoft SharePoint Portal Server 2003 管理者ガイド」または「Microsoft Windows SharePoint Services 2.0 管理者ガイド」で説明されている手順に従って、SharePoint ポータルまたは Windows SharePoint Service サイトを再作成します。

   注: バックアップが実行されたときに SharePoint の環境設定が安定していたことがわかっている場合は、構成データベースを復旧させることがあります。 ただし、このオプションは、Microsoft ではサポートされていません。

SharePoint 2007 システム上でのデータベース レベルの惨事復旧の実行方法

ファーム内の 1 つ以上のコンピュータがクラッシュすると、ファーム全体またはいくつかのコンポーネントが破損することがあります。 障害が発生した場合は、以下の手順に従って SharePoint 2007 データをリストアする必要があります。

- コンピュータ上のオペレーティング システムをリストアします。 CA ARCserve Backup Disaster Recovery Option は、これらの手順を自動化するオプション製品です。 詳細については、「Disaster Recovery Option ユーザ ガイド」を参照してください。
- 必要なアプリケーションが操作できることを確認します。 SQL Server は、Microsoft SQL Server がインストールされているコンピュータ上で実行する必要があります。 フロントエンド Web サーバおよびアプリケーション サーバには、SharePoint 2007 が必要です。

- ファーム全体を復旧する場合は、[SharePoint Products]および[Technologies Configuration]ウィザードを使用して新しいファームを作成する必要があります。
- 新しいファームを作成した後で、以下のサービスが SharePoint 2007 Central Admin で実行中であることを確認します。
  - Windows SharePoint Services Help Search、Office SharePoint Server Search、および Excel Calculation Services for SharePoint 2007 Farm
  - Windows SharePoint Services Search for Windows SharePoint Services 3.0 Farm
- 新しいファームがスタンドアロン設定の場合は、デフォルトの共有サービス プロバイダ(SharedService1)の名前を、元のファームに存在しない新しい名前に変更する必要があります。 リストアの実行後、共有サービス プロバイダを削除できます。
- ファームまたはそのコンポーネントをリストアします。 データベースを SharePoint 2007 にリストアする方法については、「データベース レベルのデータ リストアの実行」を参照してください。

付録 B: Microsoft SQL Server のセキュリティ設定

この付録では、CA ARCserve Backup 用に Microsoft SQL Server のセキュリティを設定する方法について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

Microsoft SQL 認証の種類 (97 ページ)
認証要件 (97 ページ)
ユーザ認証を変更する方法 (98 ページ)
Microsoft SQL Server の認証方法の確認と変更 (98 ページ)

Microsoft SQL 認証の種類

Microsoft SQL Server には、次の 2 種類のユーザ認証方法が用意されています。

- Windows ログイン認証を使用する方法
- Microsoft SQL Server 固有のユーザ認証を使用する方法

Microsoft では可能な限り Windows 認証のみを使用するよう推奨していますが、Microsoft SQL Server 認証の方が適切な場合や、Microsoft SQL Server 認証が必要な場合があります。 たとえば、データベースがクラスタで実行されている場合には、Microsoft SQL Server 2000 または 2005 の Microsoft SQL Server 認証を使用する必要があります。

認証要件

Microsoft SQL Server 認証を使用する場合は、管理者権限を持つユーザ アカウントを指定する必要があります。 デフォルトでは、Microsoft SQL Server によって管理者権限を持つ「sa」というアカウントが作成されます。ただし、Agent for Microsoft SharePoint では、同等の権限を持つアカウントであるならいずれも使用できます。

Windows 認証を使用している場合、データベースが実行中のマシンに対して管理者と同等の権限を持つアカウントは、通常そのデータベースに対するシステム管理者アクセス権限を持っています。

注: Microsoft SQL Server の BUILTIN¥Administrators ログイン エントリが削除されているか、このエントリに管理者権限が含まれていない場合、または管理者権限を持たないユーザ用の別の Microsoft SQL Server ログイン エントリがある場合は、そのデータベースに対するシステム管理者権限が Windows 管理者またはドメイン管理者に自動的に付与されることはありません。

ユーザ認証を変更する方法

どの認証オプションを選択した場合でも、Windows と CA ARCserve Backup の両方を適切に設定する必要があります。 さらに、認証オプションを変更した場合も、Windows と CA ARCserve Backup の設定を更新して、認証オプションの変更を反映させる必要があります。 Microsoft SQL Server 2000 を使用している場合は、サーバの各インスタンスでこの作業を行う必要があります。

ユーザの認証方法を変更し、Windows と CA ARCserve Backup の設定を更新してユーザの認証方法に加えた変更を反映させるには、Microsoft SQL Server 認証方法を確認して、変更する必要があります。

Microsoft SQL Server の認証方法の確認と変更

CA ARCserve Backup を使用して、Microsoft SQL Server 認証方法を確認または変更することができます。

Microsoft SQL Server の認証方法の確認と変更の方法

1. Microsoft SQL Server を実行中のシステムで、Microsoft SQL Server Enterprise Manager を開きます。
2. [ツリー]ペインで[コンソール ルート]を展開して、該当するデータベース サーバを見つけます。
3. そのサーバ名を右クリックしてドロップダウン リストから[プロパティ]を選択します。

   [プロパティ]ダイアログ ボックスが開きます。

4. ［プロパティ］ダイアログ ボックスで［セキュリティ］タブをクリックします。
5. ［認証］フィールドで、以下のオプションからいずれかを選択します。

   Microsoft SQL Server および Windows

   Microsoft SQL サーバベースの認証を有効にします。

   Windows のみ

   Windows ユーザ名とパスワードのみを有効にします。
6. ［OK］をクリックします。

   ユーザ認証処理が設定されました。

付録 C: トラブルシューティング

CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint を使ったバックアップやリストアに関する問題のトラブルシューティングには、以下の情報が用意されています。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

AE9972（101 ページ）

AE9972

イベント OnRestore において、AE9972 オブジェクト <Component Name> の失敗エラーを受信した場合は、以下のタスクを実行してください。

1. Windows SharePoint Services Administration として表示される SPAdmin Windows サービスを開始します。
2. SharePoint 3.0 Central Administration Web サイトにアクセスし、［Operations］ - ［Topology and Services］ - ［Services on Server］を選択します。
3. エージェント マシン サーバを選択し、［Custom］ラジオ ボックスを選択します。
4. ［Central Administration］をクリックします。
5. ［開始］をクリックします。
6. 失敗したジョブを再実行します。

索引

S

SharePoint Database Agent - 17
SharePoint External Data Agent - 17
SharePoint Router Agent - 17
SharePoint データ
　環境 - 11
　サーバの役割 - 18
　サポートされている種類 - 13
SQL Agent フィルタ - 76
SQL Server、認証 - 97

あ

暗号化
　暗号化、サポート - 34, 48, 49
　暗号化、シングル サインオン キー - 13, 17, 18, 49
インストール
　前提条件 - 28
　注意事項 - 26
エージェント
　アンインストール - 32
　エージェント、SharePoint External Data - 17
　エージェント、SharePoint Router - 17
　エージェント、SharePoint データベース - 17
　エージェント、アーキテクチャ - 15
　環境設定 - 29
　機能 - 11
　惨事復旧のサポート - 91
エージェントのアンインストール - 32
エージェントの設定 - 29

か

回復完了状態 - 73
カスタマ サポート、お問い合わせ - v
強制リストア オプション - 73
グローバル バックアップ オプション - 49
検索インデックス サーバ、リストア - 93
後方互換性ドキュメント ライブラリ サーバ、リストア - 93

さ

サーバの役割 - 18
差分バックアップ - 43
差分バックアップのリストア - 69
サポート、お問い合わせ - v
サポートされるバックアップの種類 - 40
惨事復旧 - 91
シングル サインオン
　シングル サインオン、暗号化キー - 14, 17, 18
　シングル サインオン、サーバ - 11, 15, 65
　シングル サインオン、設定 - 12, 21, 29, 68, 91
　シングル サインオン、データベース - 12, 13, 21, 68
増分バックアップ - 49

た

ディレクトリ構造、バックアップ マネージャ - 18
データのバックアップ計画 - 41
データのリストア
　オプション - 71, 72, 73, 74, 75, 76
　概要 - 65
　差分バックアップのリストア - 69
　サポートされているデータベース - 66
　惨事復旧 - 92, 93, 94
　セッション単位 - 81
　セッションの自動選択の使用 - 72, 83
　ツリー単位 - 77, 78
　データのリストア、検索インデックス サーバ - 93
　データのリストア、後方互換性のあるドキュメント ライブラリ サーバ - 93
　データのリストア、データベース サーバ - 94
　データのリストア、部分的にリストア - 71
　データのリストア、フロントエンド Web サーバ - 92
　トランザクション ログ - 70
　トランザクション ログのリストア - 70
　方式 - 77
　[リストア方式]の使用 - 72
データベース サーバ、惨事復旧を使用したリストア - 94
データベースの整合性チェック - 47, 76

データベースのバックアップ、手順 - 51
データベース ファイルのリストア方法 - 75
テクニカル サポート、お問い合わせ - v
テクニカル サポートへのお問い合わせ - v
統合ビュー - 18
動的なジョブ パッケージ - 54
トランザクション ログのバックアップ - 44
トランザクション ログのリストア - 70

は

バックアップ
- 概要 - 39
- 計画 - 41
- 差分バックアップ - 43
- サポートされるバックアップの種類 - 40
- ジョブ パッケージ - 53, 54
- 増分バックアップ - 49
- データベースのバックアップ - 51
- 手順 - 51
- トランザクション ログ - 44
- ファイルおよびファイル グループのバックアップ - 44
- フル バックアップ - 42

バックアップ マネージャ - 50
ファイルおよびファイル グループのバックアップ - 44
ファイルおよびファイル グループのリストア - 70
フロントエンド Web サーバ、リストア - 92

ま

明示的なジョブ パッケージ - 55

ら

リストア後、ユーザのアクセスを制限する - 76
レプリケーション設定の保持 - 76
ローテーション スキーマ - 49
ログによる Point-in-Time リストア - 74